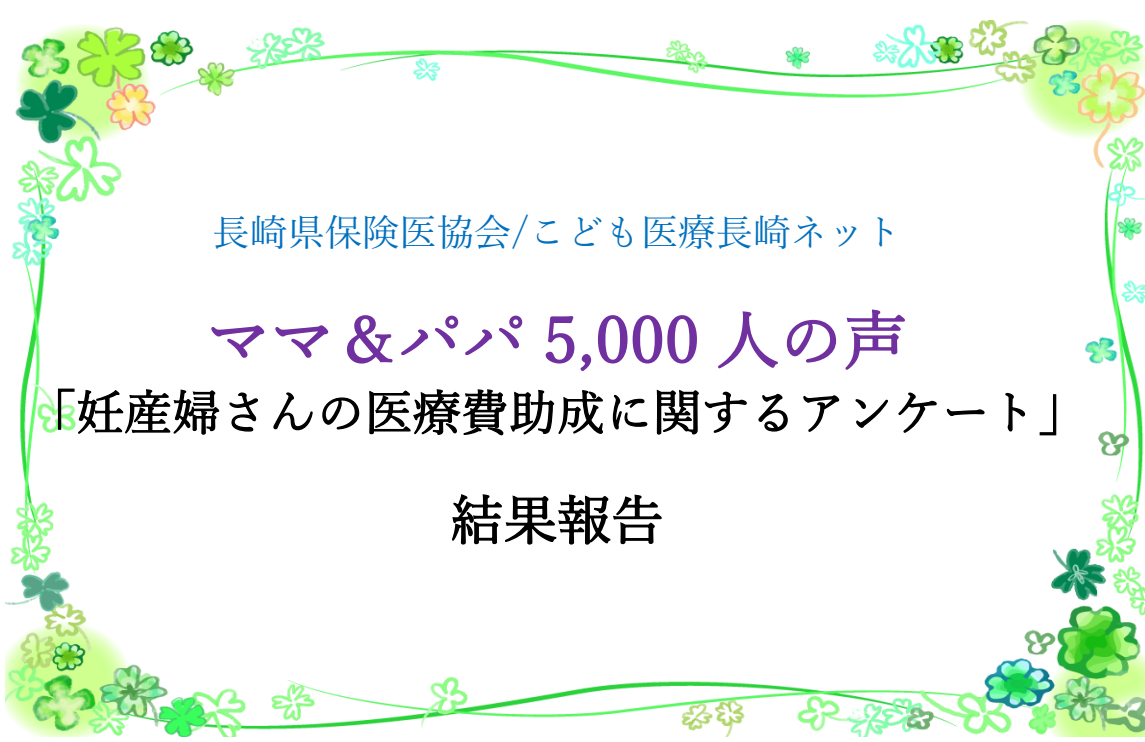




長崎県保険医協会/こども医療長崎ネット

ママ＆パパ 5,000 人の声
「妊産婦さんの医療費助成に関するアンケート」

結果報告



長崎県保険医協会

はじめに

長崎県保険医協会会長 本田 孝也



2021年4月、こども医療長崎ネットは長崎県保険医協会と共同で長崎県内の妊婦ならびに子育て中の保護者を対象にアンケート調査を行い、1万3,000件を超える回答を得ました。

前回の調査から4年が過ぎ、こども医療長崎ネットと長崎県保険医協会は再び妊産婦医療費助成制度についてのアンケート調査を行いました。

今回は回答対象に男性も加え、子ども医療費の窓口無料化についても設問を設けました。

調査期間は2025年4月7日から5月31日までの間にアンケート用紙とGoogleフォームを使って行い、書面で2,447件、Webで2,593件、合計5,040件の回答が寄せられました。

男性からの回答は358件（7%）で、「妊婦健診に付き添う予定（付き添ったことがある）」は69%、「出産に立ち会う予定（立ち会った経験がある）」は66%、「育休をとる予定（とった経験）がある」は31%でした。

制度についての認知度には変化がみられ、「妊産婦医療費助成制度についてご存じでしたか」について「はい」の回答は前回が13%だったものが、今回は42%と大きく増加していました。

妊産婦医療費助成制度は北陸、東北、関東の自治体で多く実施されているものの、当時九州では大分県の臼杵市のみでした。その後長崎県内でも導入を検討する自治体も少しずつ増え、2023年4月より南島原市で妊産婦医療費助成制度が始まりました。

妊娠期間・産後を通して医療費や健診代にかかる自己負担が高いという回答は前回、今回ともに高く、産後うつに関しても半数近くが精神不安を感じたと回答したものの、医療機関を受診したという回答は7%に止まりました。

妊産婦医療費助成制度について、「ぜひつくってほしい」「あるとよいと思う」を合わせた回答は前回の95%から変化なく95%と高い制度創設に対する要望が示されました。

こども家庭庁の調査によると、全国で子ども医療費の窓口自己負担なしの自治体がゼロの都道府県は長崎県だけでした。このことを「知っている」と回答したのは僅か18%でした。

こども医療長崎ネットと長崎県保険医協会はアンケート結果をもとに、これからも妊産婦医療費助成制度の創設、子ども医療費窓口負担の無料化にむけた取り組みを進めていきたいと思っています。

目次

はじめに	
調査方法.....	1
1. 回答者の基本属性.....	1～2
2. 女性の方におたずねします	2～7
(1) 妊娠・出産した経験はありますか？	2
(2) 妊娠中に、産婦人科以外で受診した診療科は？	3
(3) 妊娠、出産を原因とする精神的な不安定さを感じたことがありますか？	4
(4) 産後歯科健診についてどう思われますか？	6
3. 男性の方におたずねします	7～11
(1) 妊婦健診の付き添いについて	7
(2) 出産に立ち会う予定（立ち会った経験）がありますか？	9
(3) 育児休暇または育児休業をとる予定（とった経験）がありますか？	10
(4) 「産後うつ」を知っていますか？	11
4. すべての方におたずねします	12～15
(1) 妊娠期間・産後の医療費や健診代にかかる自己負担は、どう感じますか？	12
(2) 「妊産婦医療費助成制度」をご存知でしたか？	12
(3) 「妊産婦医療費助成制度」を県や市町が創設することについてはどう思われますか？	13
(4) 「子ども医療費助成制度」についておたずねします	13
5. 自由意見.....	15～19
まとめ.....	20～22
参考資料 「妊産婦医療費助成制度実施自治体一覧」（2025 年 6 月現在）	23～27
長崎県「妊産婦さんの医療費助成に関するアンケート」用紙	28～29

🔍 調査方法

【実施期間】 2025 年 4 月 7 日～5 月 31 日

【対 象】 妊婦、子育て中の保護者

【配 布 先】 長崎県内の保育園・幼稚園、婦人科・小児科・小児歯科標榜医療機関、助産師会、自治体等

【方 法】 アンケート用紙（A4 版 1 枚・両面）を郵送し（59,037 枚）、郵送・FAX・インターネットで回答

【回 答 数】 5,040 枚（紙での回答 2,447 枚、ネットでの回答 2,593）

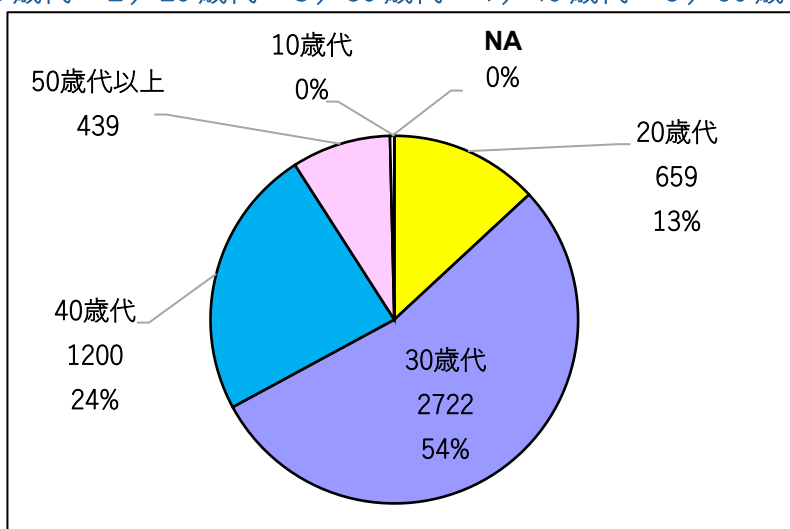
◆ 回答者の基本属性

1. あなた（アンケート記入者）について

（1）年齢は？

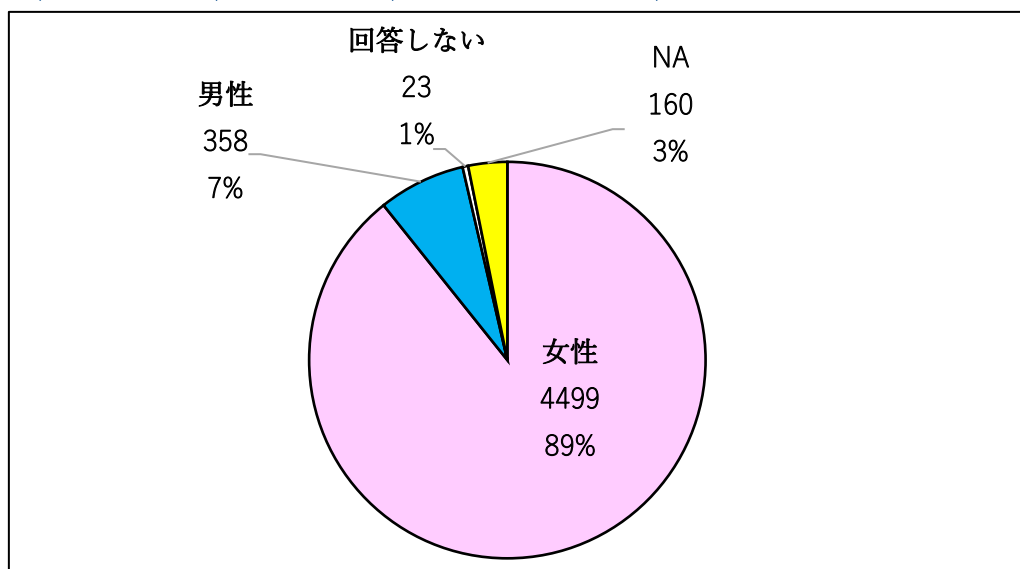
年齢→ 1) 10 歳代 2) 20 歳代 3) 30 歳代 4) 40 歳代 5) 50 歳代以上

年代	人
10 歳代	1
20 歳代	659
30 歳代	2722
40 歳代	1200
50 歳代以上	439
NA	19



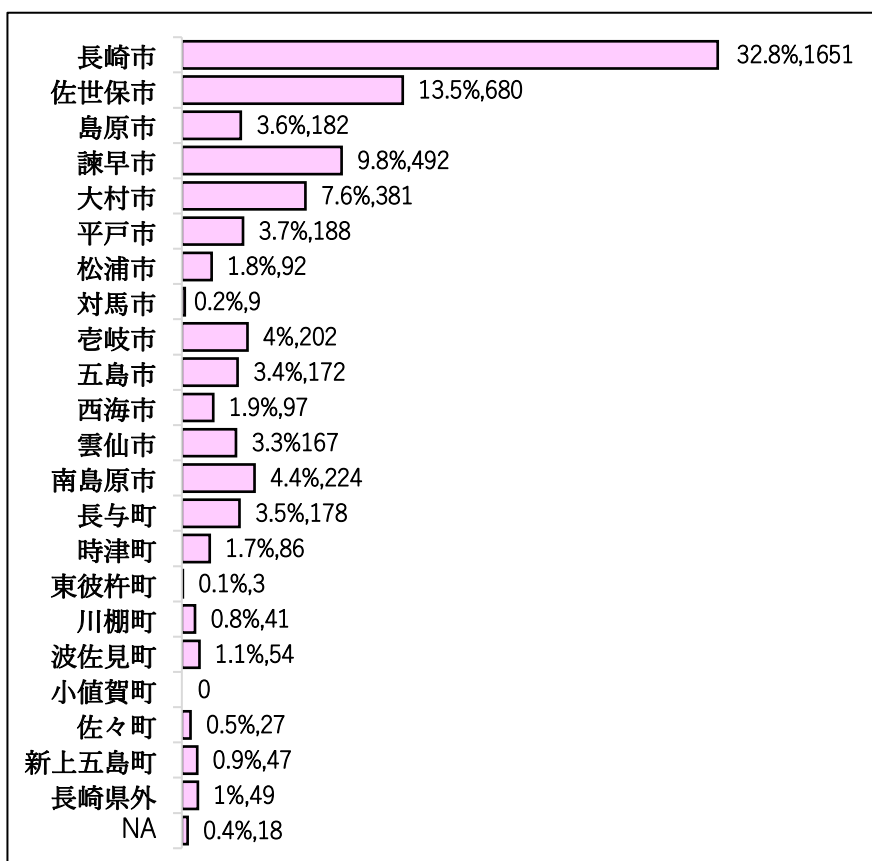
（2）性別は？

1) 女性 2) 男性 3) 回答しない 4) NA



(3) あなたの現在のお住まいは？里帰り中の方は里帰り先の住所をご記入ください。

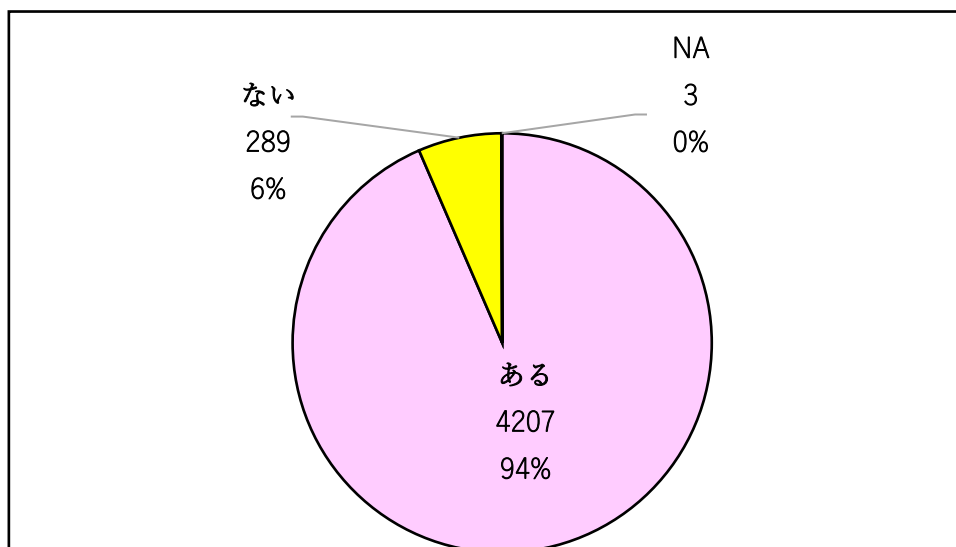
居住地	人	居住地	人
長崎市	1651	南島原市	224
佐世保市	680	長与町	178
島原市	182	時津町	86
諫早市	492	東彼杵町	3
大村市	381	川棚町	41
平戸市	188	波佐見町	54
松浦市	92	小値賀町	0
対馬市	9	佐々町	27
壱岐市	202	新上五島町	47
五島市	172	長崎県外	49
西海市	97	NA	18
雲仙市	167		



2. 女性の方におたずねします

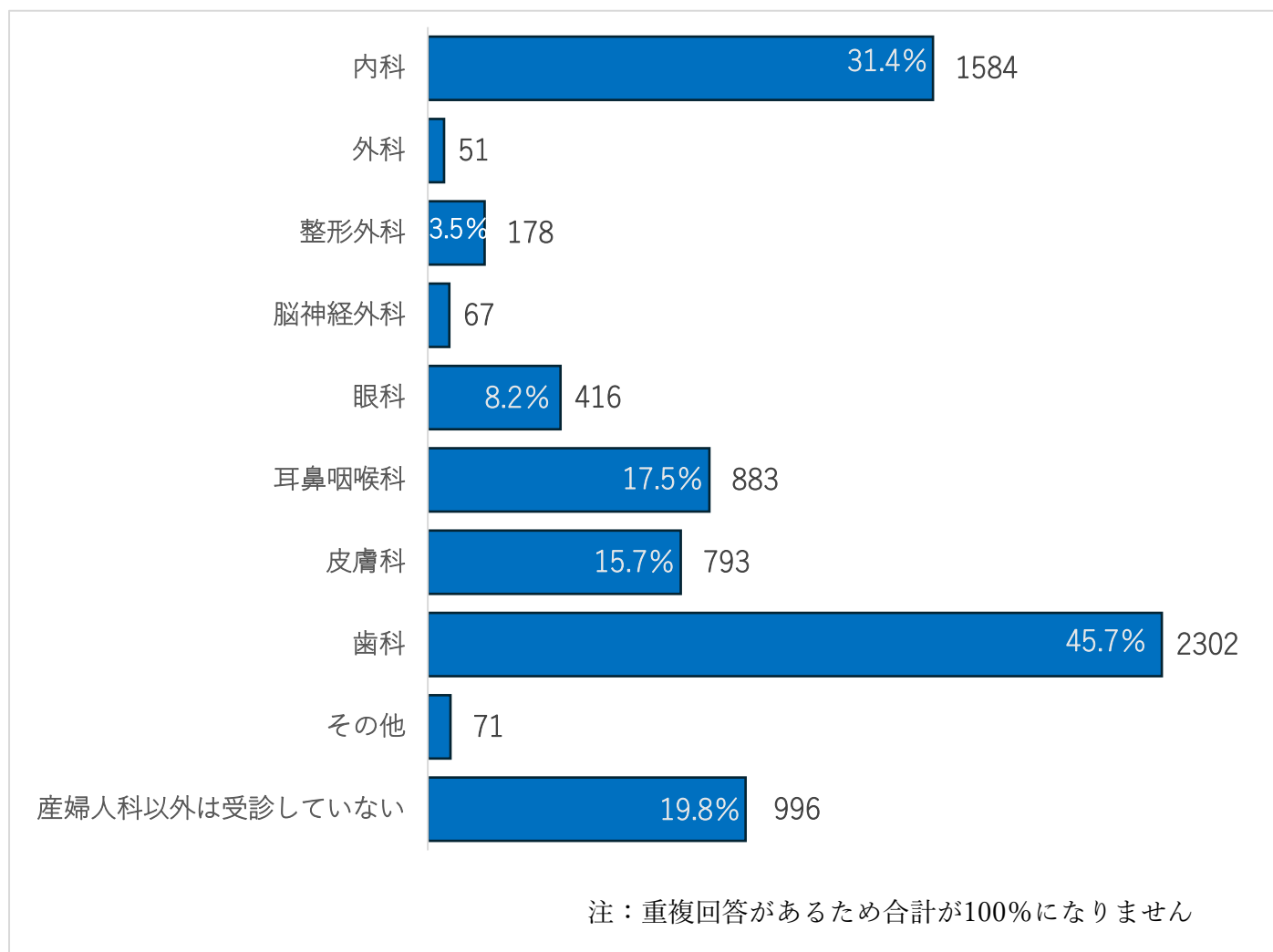
(1) 妊娠（流産・中絶を含む）・出産した経験はありますか？（現在妊娠中も含む）

1) ある 2) ない



(2) 妊娠中に、産婦人科以外で受診した診療科は？（複数回答可）

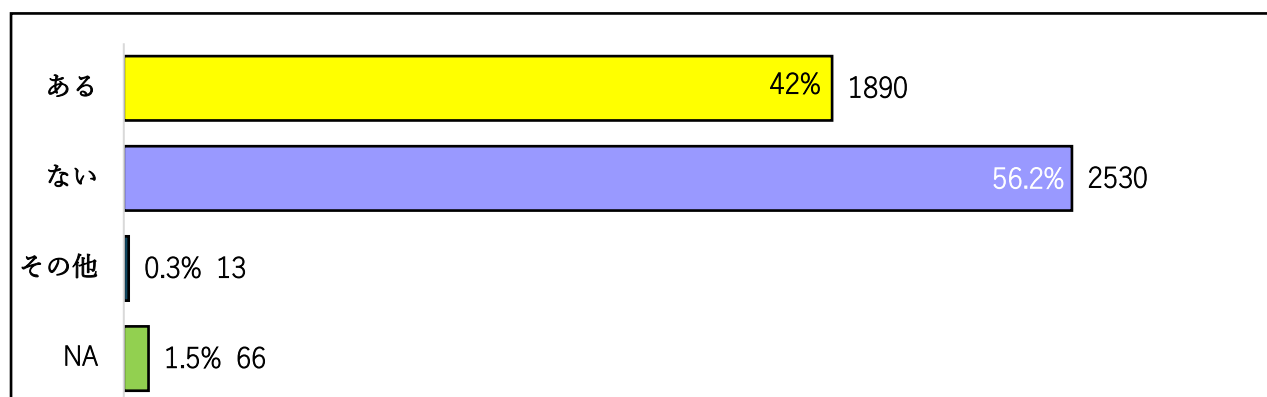
- 1) 内科 2) 外科 3) 整形外科 4) 脳神経外科 5) 眼科 6) 耳鼻咽喉科
7) 皮膚科 8) 歯科 9) その他 10) 産婦人科以外は受診していない



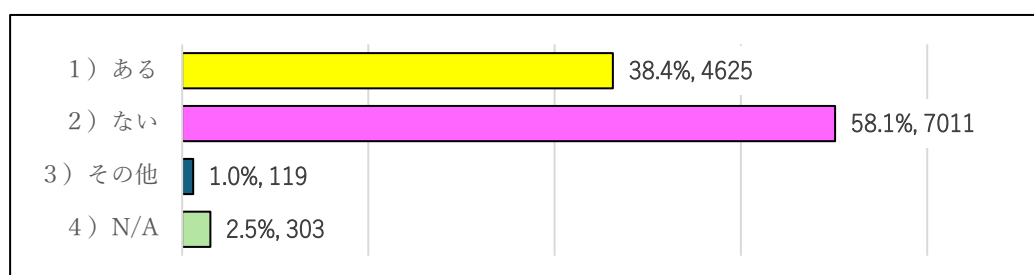
※その他の記述：甲状腺分泌科/甲状腺内科/甲状腺科/甲状腺クリニック/心療内科/精神科/循環器内科/腎臓病科/呼吸器内科/呼吸器科/胃腸科/内分泌科/内分泌代謝/消化器科/消化器内科/形成外科/総合診療科/肛門科/整骨院/糖尿病科/妊娠中虫垂炎 ope/小児科/血液内科/乳腺科/泌尿器科

(3) 出産後1年以内に、妊娠、出産を原因とする精神的な不安定さを感じたことがありますか？

1) ある 2) ない 3) その他 4) NA

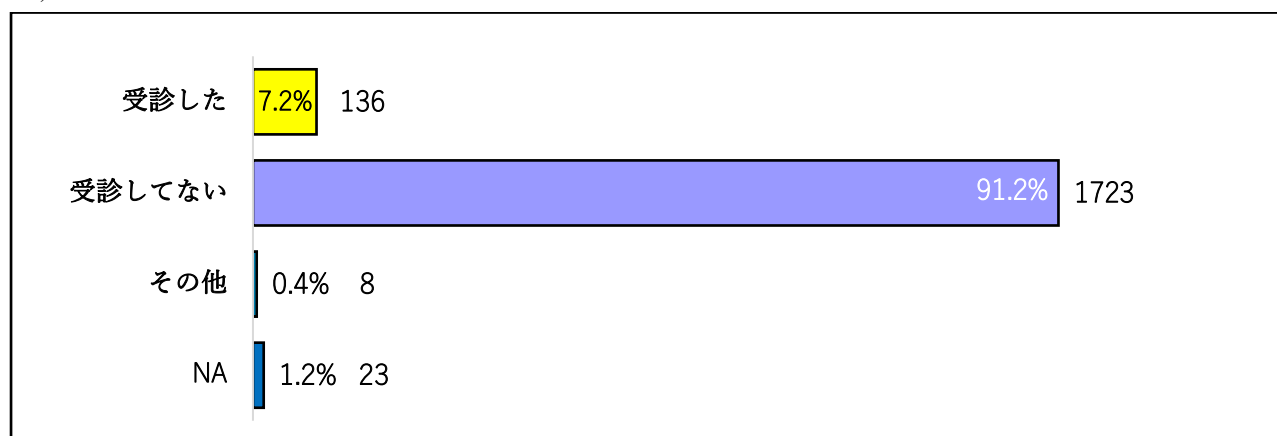


(前回 2021 年)

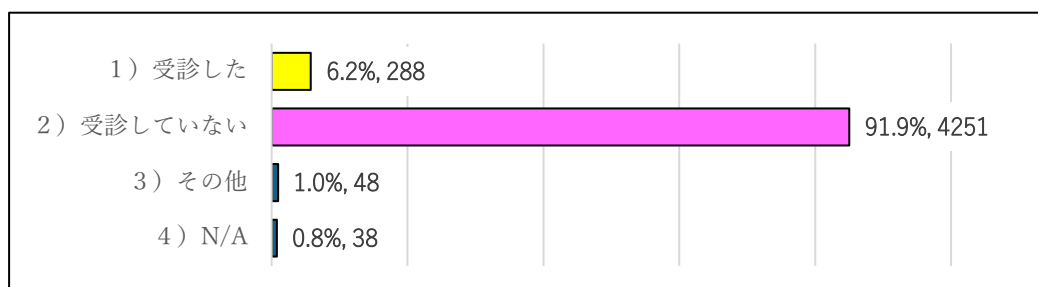


<「ある」とご回答の方>→その時に、心療内科・精神科を受診しましたか？

1) 受診した
2) 受診していない→ (理由：次頁)
3) その他
4) NA



(前回 2021 年)



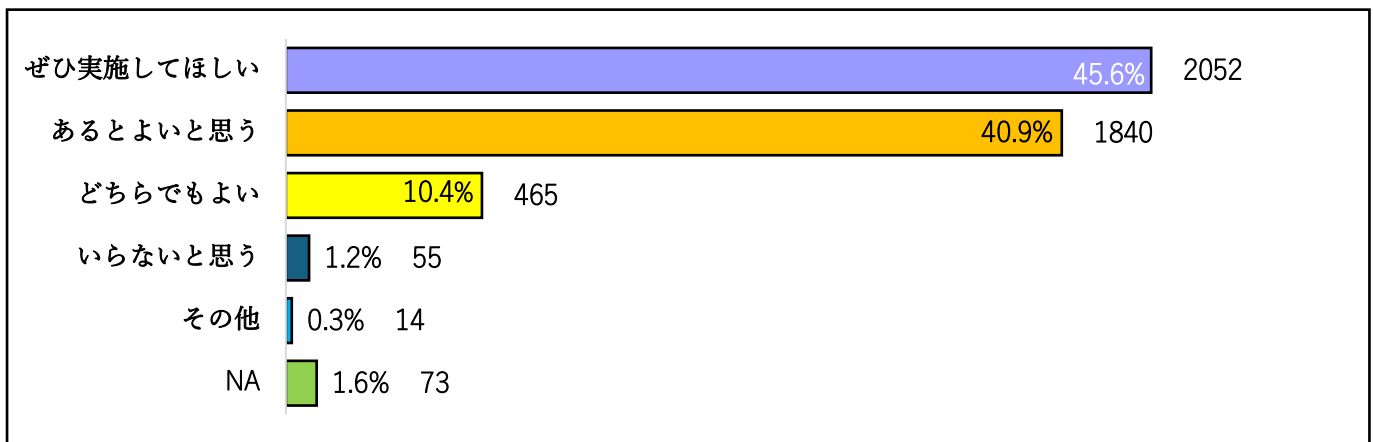
※) 精神科・心療内科の受診を受けていない理由 (抜粋)

- *辛いことが当たり前だと思っていたから。
- *受診する事は全く頭になかった
- *双子、1歳上の子どものお世話でそれどころではなかった。
- *子供を預けられない、受診行動をとる余裕がない
- *初めての育児経験に加えてホルモンバランスの乱れが原因だと思ったから
- *時間が解決すると思ったから
- *不安なことがあって調べて余計不安になることがあったが、しばらくすると落ち着いたり、親に相談したりして大丈夫かとなったから
- *病院は受診していないが民間のカウンセリングは受けている。現在も継続中。
- *産後、不安定になるだろうとはわかっていたので、様子を見ようと思ったから
- *行く暇がなかった。子供を預けるところがなかった。周囲に理解してもらえなかった。
- *人の些細な発言や行動に敏感になったが、原因と理由がはっきりしていたので、時間が経てば気持ちも落ち着くだろうと考えたから。
- *家族などにサポートしてもらった
- *どこに行ったらいいかわからなかった
- *子育てに忙しくて受診する時間がとれないし、子どもの預け先もない
- *それが当たり前だと思ってしまう事、必死になって自分の大変さが後回しになってしまうから。
- *病院に行くという発想がなかった
- *出産したら治ると思ったから。
- *一時的なもの、マタニティブルーのようなものだったから
- *周りに不安を相談したりして受診する程ではなかった為
- *寝不足による影響だと感じたし、敷居が高い。
- *金銭面での精神的不安だった為
- *自分でコントロールできると思ったから
- *子どもを抱えて受診が難しい。母乳だったので、長時間子どもと離れられない。
- *我慢すればどうにかなるから
- *産後の情緒不安定はあると認識していたので
- *何年か経って、産後うつだったのかも…と気付いた為。当時は寝不足に疲労に、自分を省みる余裕がなかった。
- *改善するだろうと思った、受診する余裕もなく考えつかなかった
- *子どもを預けてまで受診するほどではないと思ったから
- *時間、体力、金銭面で行く余裕がない
- *ホルモンバランスが崩れていると自覚があったから
- *赤ちゃんを連れて受診は難しいと感じた。しばらくすれば改善すると思った。
- *心療内科で改善ができと思えなかった、一過性のものだと理解してたから
- *受診するタイミングが分からない。受診するまではないかなと思ったから。
- *赤ちゃんつれて出かける方が大変だから、何とか耐えた。
- *数ある心療内科から選びきれなかった、授乳中だったため薬を処方されたら授乳をやめないといけなかったから
- *産後心が不安定になるとは聞いていたし、深刻だと思わなかった。

- *悩んでいるのはみんな同じだと思ったから。
- *夫に子供を預けて一人で出かけたり、自分の時間を作ったりした
- *産後うつ診断をされたくない
- *夫の理解不足、認知不足
- *乳児を抱えてだと診察待ち時間を無事過ごせるとは思えないので。
- *ネット予約がある場合でも待ち人数が非常に多いので診察までに要する時間が多くその間の子供達の世話を他の人に頼めないで断念した。

(4) 長崎県内の全市町は産後健診を実施していますが、産後歯科健診は実施にばらつきがあり、実施しているのは、5市町（長崎市・佐世保市・島原市・五島市・波佐見町）しかありません。産後歯科健診についてどう思われますか？

- 1) ぜひ実施してほしい 2) あるとよいと思う 3) どちらでもよい 4) いないと思う
5) その他(※)



※5) その他の記述(抜粋)

- *可能なら産後歯科検診も、フッ素やクリーニング含めてほしいです。ホルモンバランスの変化で、極めて口内環境が悪くなりました。
- *口を見るだけでなく、掃除を含む歯科検診をしてほしかった
- *あるとよいが産後子供を連れていけるか、託児があるかで違うと思うので、その辺も考慮して実施してほしい
- *あるといいと思うが、新生児がいるなかで歯科検診を受けるのは環境できに困難と思われる。
- *その間で子供を無料で預かって下さければ是非実施していただきたい
- *健診でクリーニングもすすめられ、してもらったら健診の券は使えず、自費となった、結局健診の券は使わないので意味がないのではと思った。
- *産後だと赤ちゃんを連れて行かなければいけないので、産前の安定期に歯科検診できたらいいのでは？(治療はできないだろうが。)
- *あることを知らなかった。知っていれば受診したかった。
- *妊娠中、産後の歯科検診は必要だと思うが、歯科医師からこの無料検診やっても意味がないと言われた
- *産後は自分のための受診になかなか時間とれない。託児付きであることが必要。
- *対象の病院に行ったのに補助券を使えないと言われた。
- *実施してほしいが期間伸ばしてほしい。

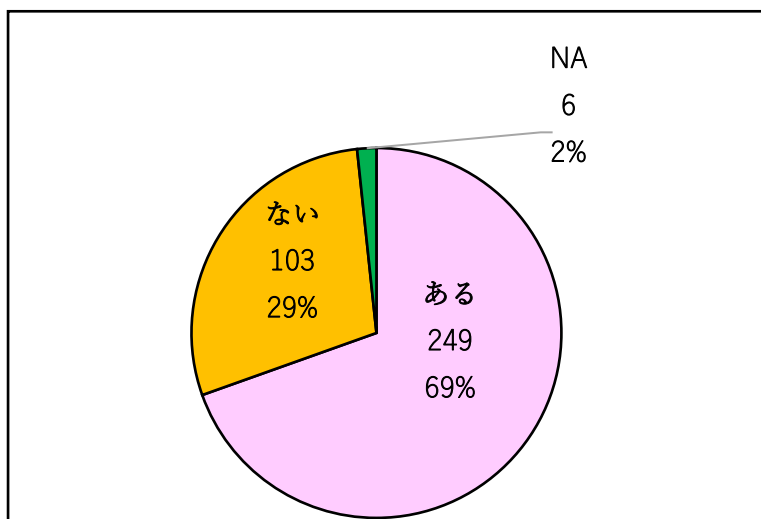
- * 妊婦歯科検診がなぜ無料じゃないのか疑問、多くの自治体で実施している。
- * 産後歯科健診へ行く際は赤ちゃん同伴の場合、誰か見てくれる人は病院にいますか？行きたくても行けない人もいます。
- * 全歯科が健診対象にはなっていないので、かかりつけが対象じゃない場合はあまり意味がないと思う
- * 使用したことがあるが、そもそも診るだけでクリーニングや治療にはお金かかるから意味がないと思った。あと、歯医者に子供連れて行けないのでそもそも行けない。預けてまで行くの苦勞する。

3. 男性の方におたずねします

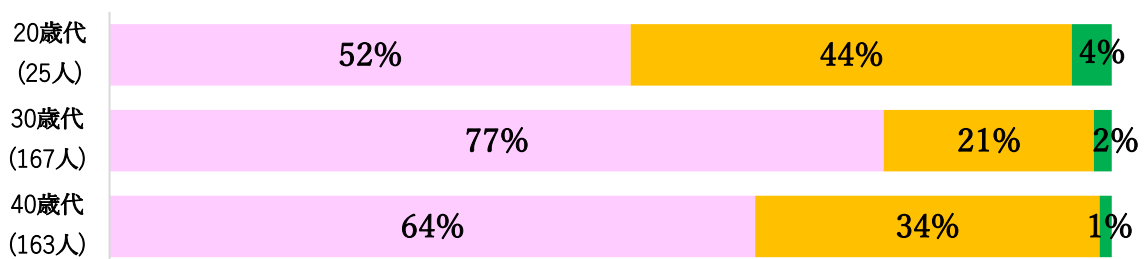
(1) 妊婦健診の付き添いについて

付き添う予定は？（付き添ったことが?）

- 1) ある→頻度は？
- 2) ない
- 3) NA

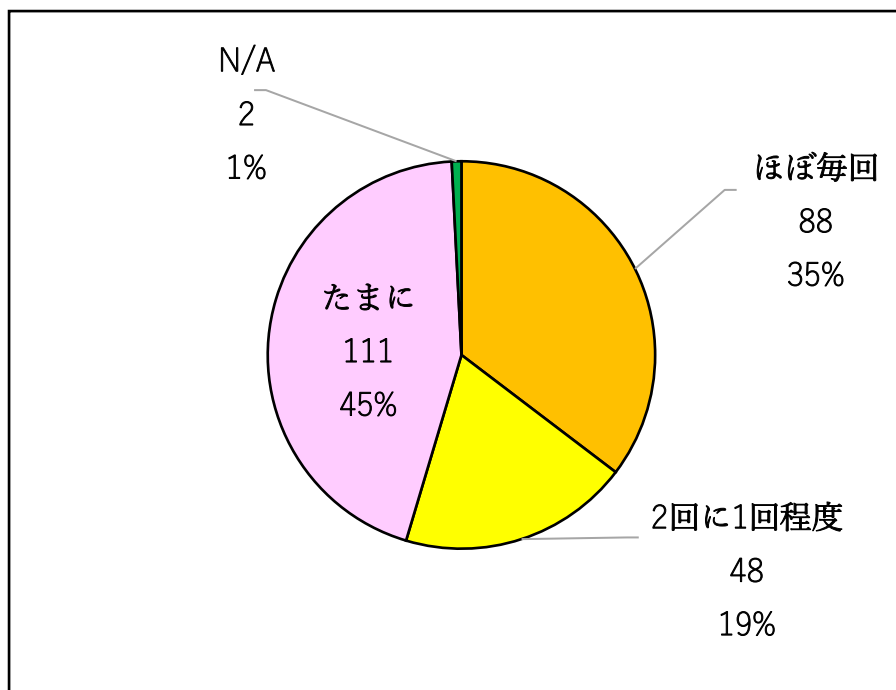


妊婦健診の付き添いについて

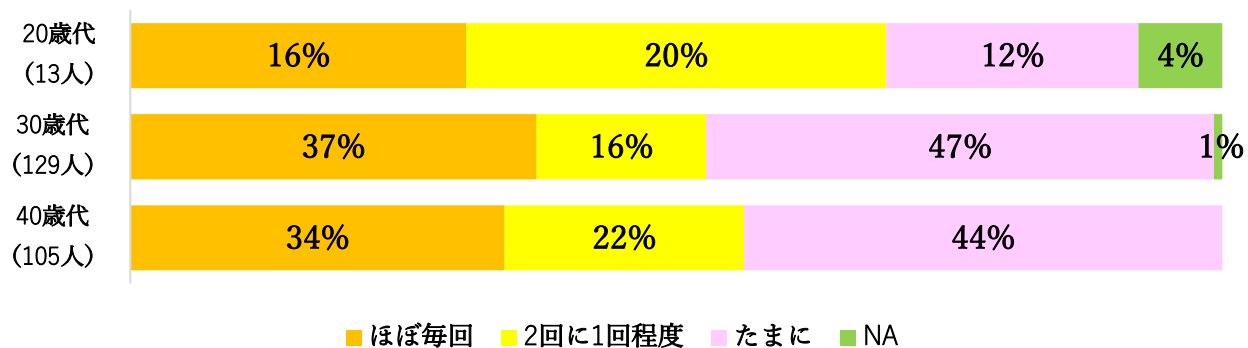


- 付き添う予定（付き添ったことがある）
- 付き添う予定はない（付き添ったことはない）
- その他

頻度は？ ほぼ毎回・2回に1回程度・たまに

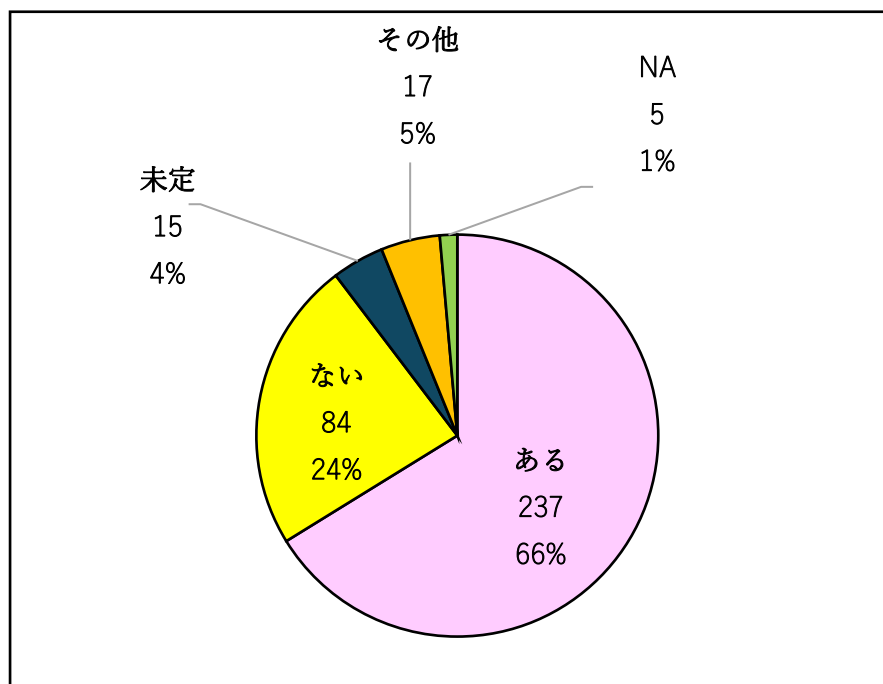


頻度について

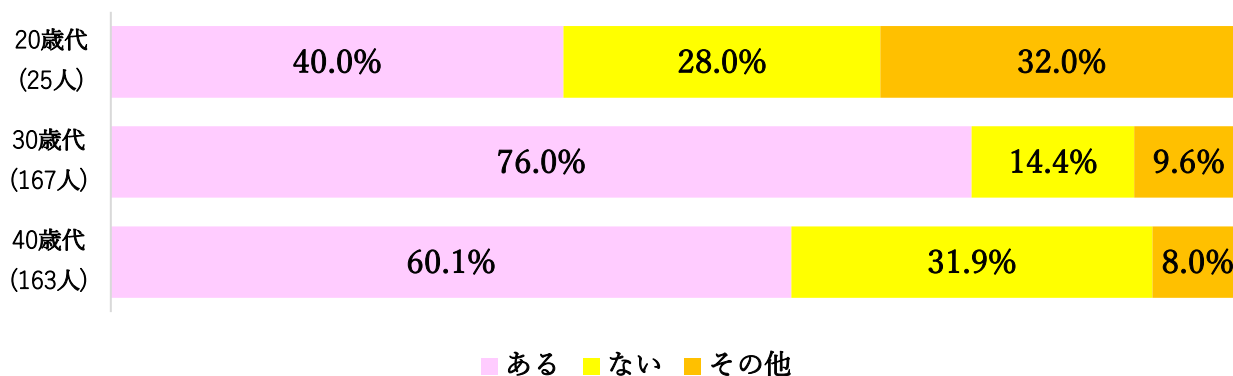


(2) 出産に立ち会う予定（立ち会った経験）がありますか？

1) ある 2) ない 3) 未定 4) その他 5) NA



出産に立ち会う予定（立ち会った経験）がありますか？

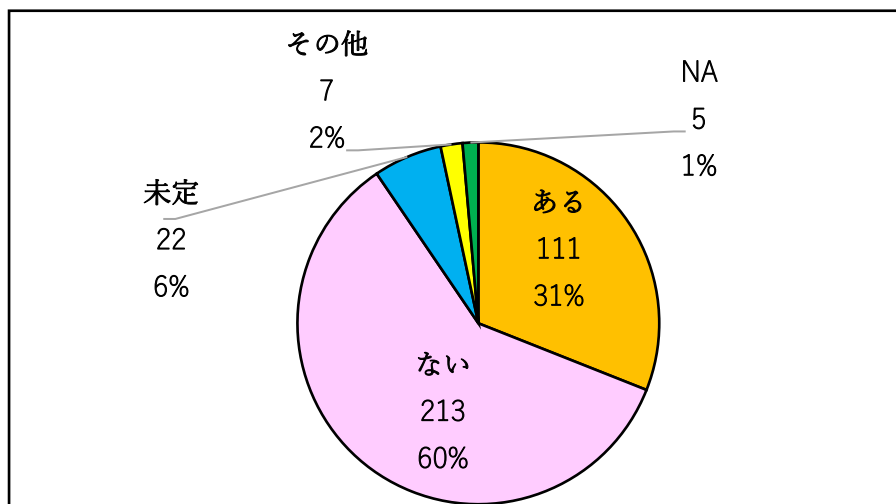


※その他の記述（抜粋）

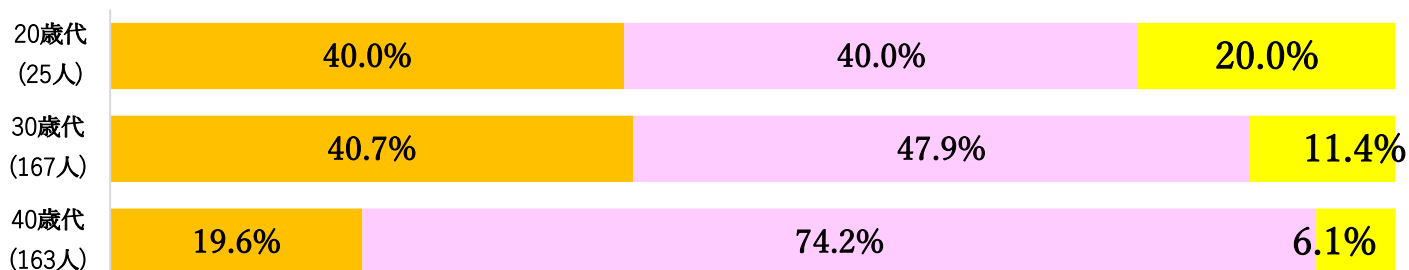
- * 待合室で待機
- * 立ち会いたかったがコロナ禍でできなかった。
- * 立ち会うことを希望したがコロナ関係で産院から拒否された。
- * 予定帝王切開のため立ち会いできず。
- * 里帰り出産で間に合わなかった。
- * 緊急帝王切開で手術だったので待機だった
- * 立ち会いの予定だったが間に合わなかった。
- * 3人中1人のみ立ち会った。

(3) 育児休暇または育児休業をとる予定（とった経験）がありますか？

1) ある 2) ない 3) 未定 4) その他 5) NA



育児休暇または育児休業をとる予定（とった経験）がありますか？



■ ある ■ ない ■ その他

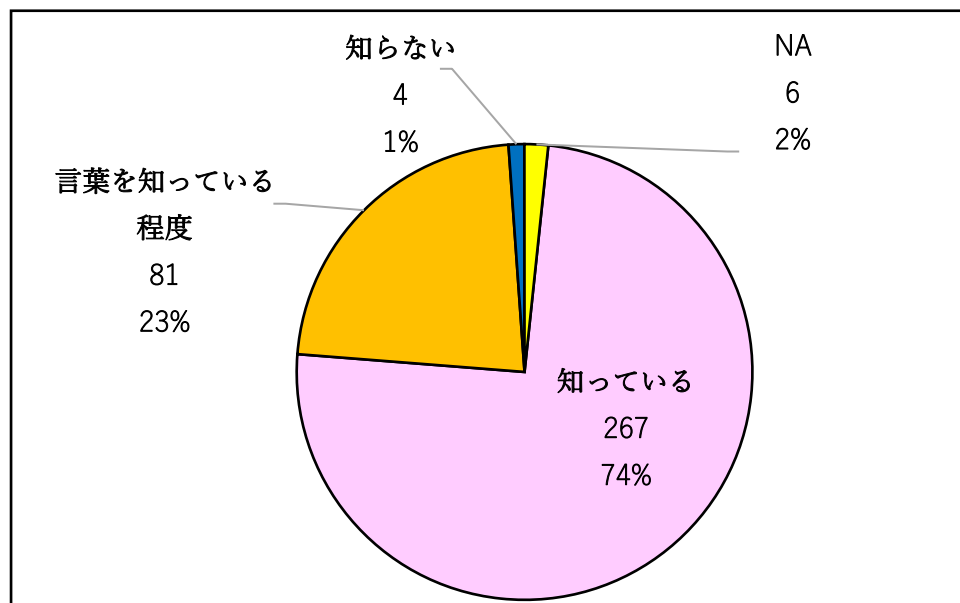
※その他の記述（抜粋）

- * 取らせてくれない
- * 取らせてもらえなかった
- * 取りたいが取れない
- * 人員関係でとることができなかった。
- * 自営業でなかなかきびしい
- * 有休で対応した

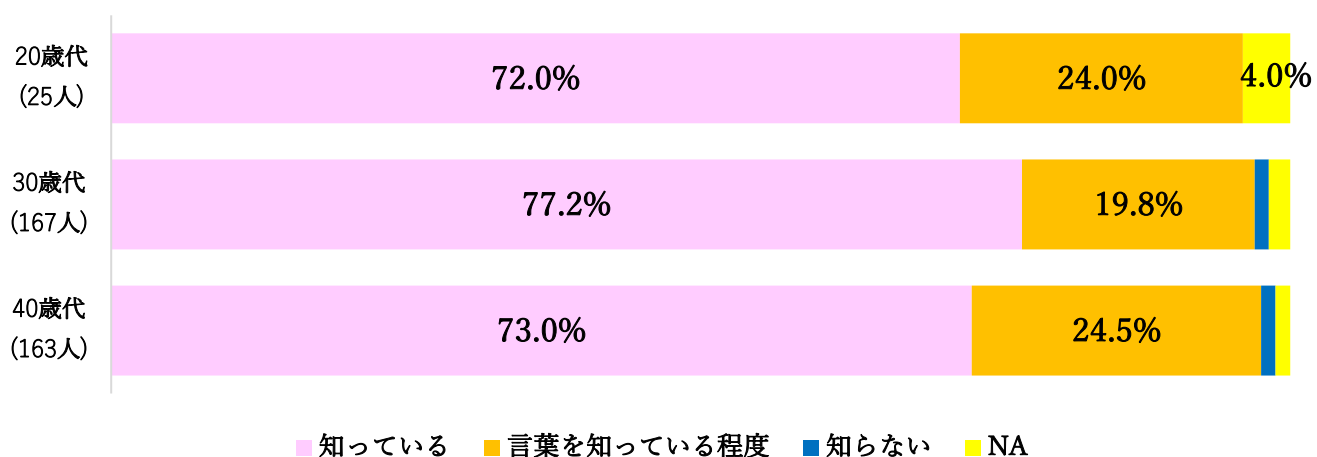
- * 有休を数日利用した。
- * 申請のやり方がわからなかった
- * 病院勤務で他に代わりの人がいない。
- * 会社が育休の制度がない!!
- * 取った経験はないが今後取りたい
- * 有休で対応した

(4)「産後うつ」を知っていますか？

1) 知っている 2) 言葉を知っている程度 3) 知らない 4) NA



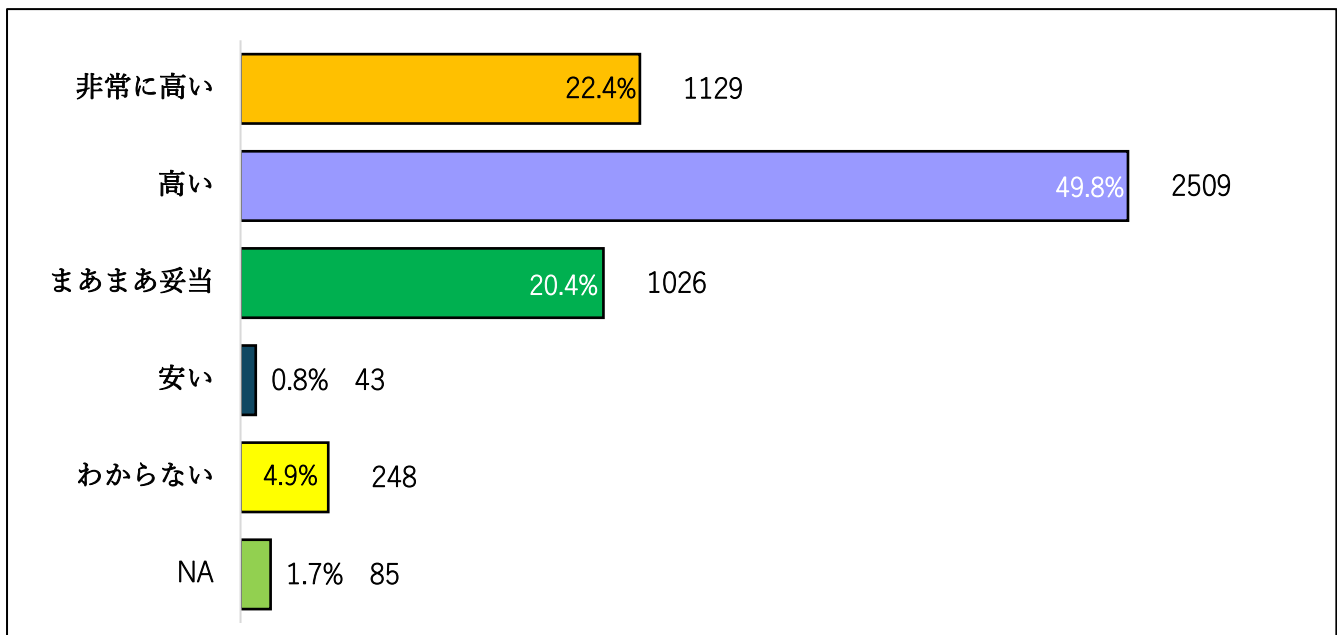
「産後うつ」を知っていますか？



4. すべての方におたずねします

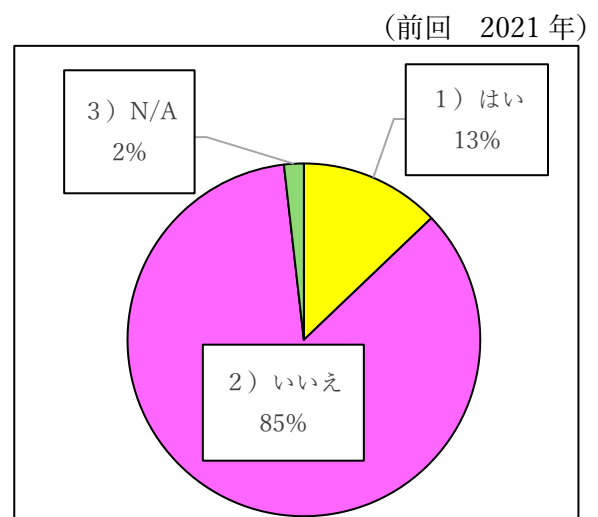
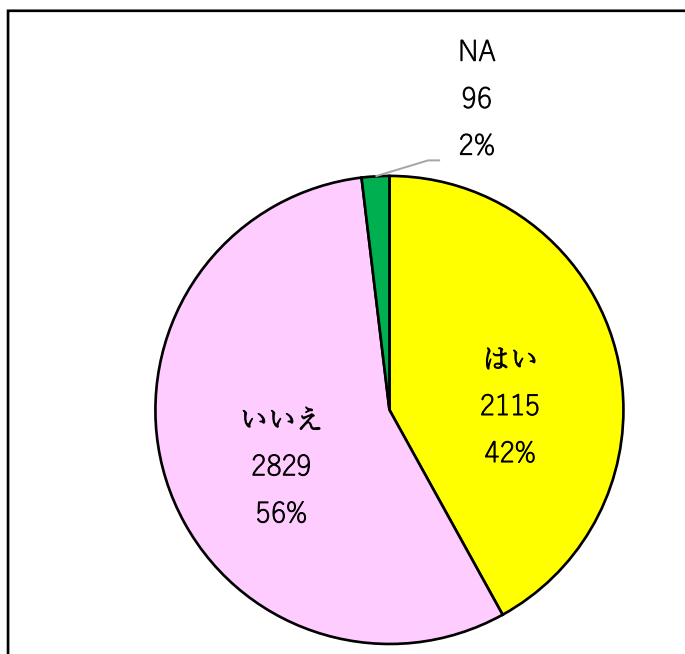
(1) 妊娠期間・産後を通して医療費や健診代にかかる自己負担は、どう感じますか？

1) 非常に高い 2) 高い 3) まあまあ妥当 4) 安い 5) わからない 6) NA



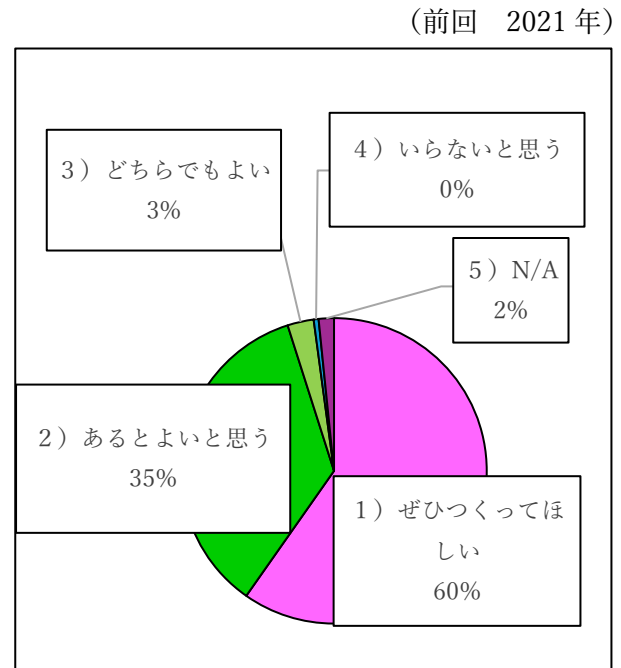
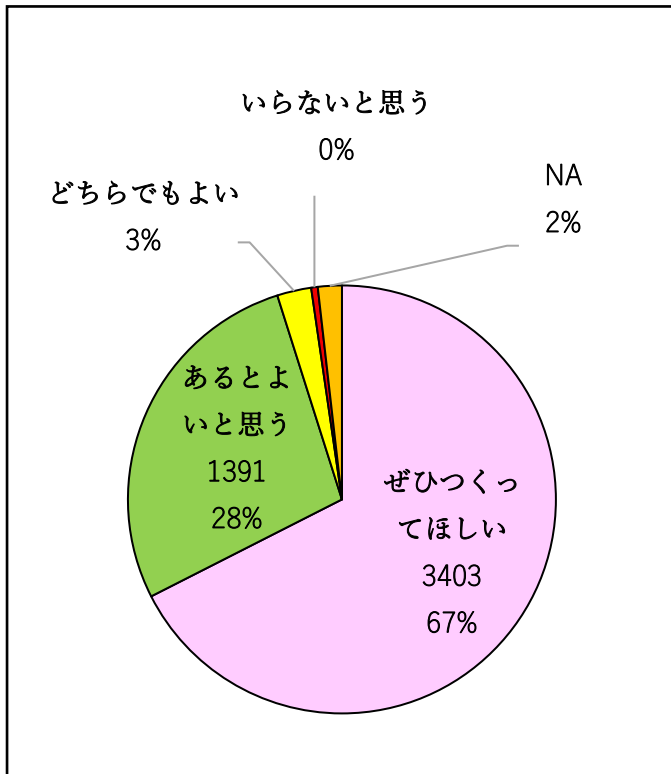
(2) 他県・市では、子ども医療費助成制度のように、妊産婦を対象に医療費の自己負担分を補助する「妊産婦医療費助成制度」があります（県や市町など地域によって対象や範囲、内容に違いがあります）。この制度のことをご存知でしたか？

1) はい 2) いいえ 3) NA



(3)「妊産婦医療費助成制度」は長崎県内では南島原市以外で実施している市町はありません。県や市町が制度を創設することについてはどうお考えですか？

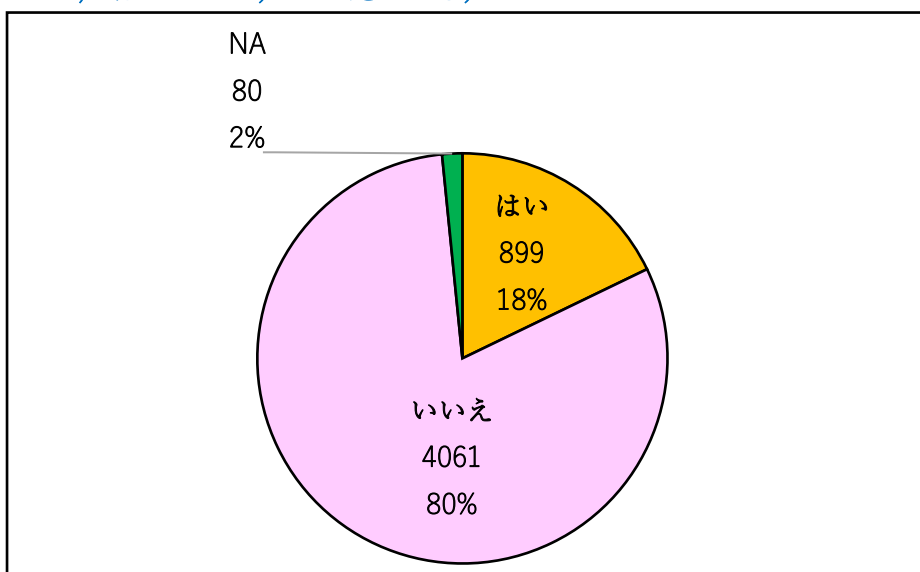
- 1) ぜひつくってほしい 2) あるとよいと思う 3) どちらでもよい
4) いらないと思う 5) NA



(4)「子ども医療費助成制度」についておたずねします。

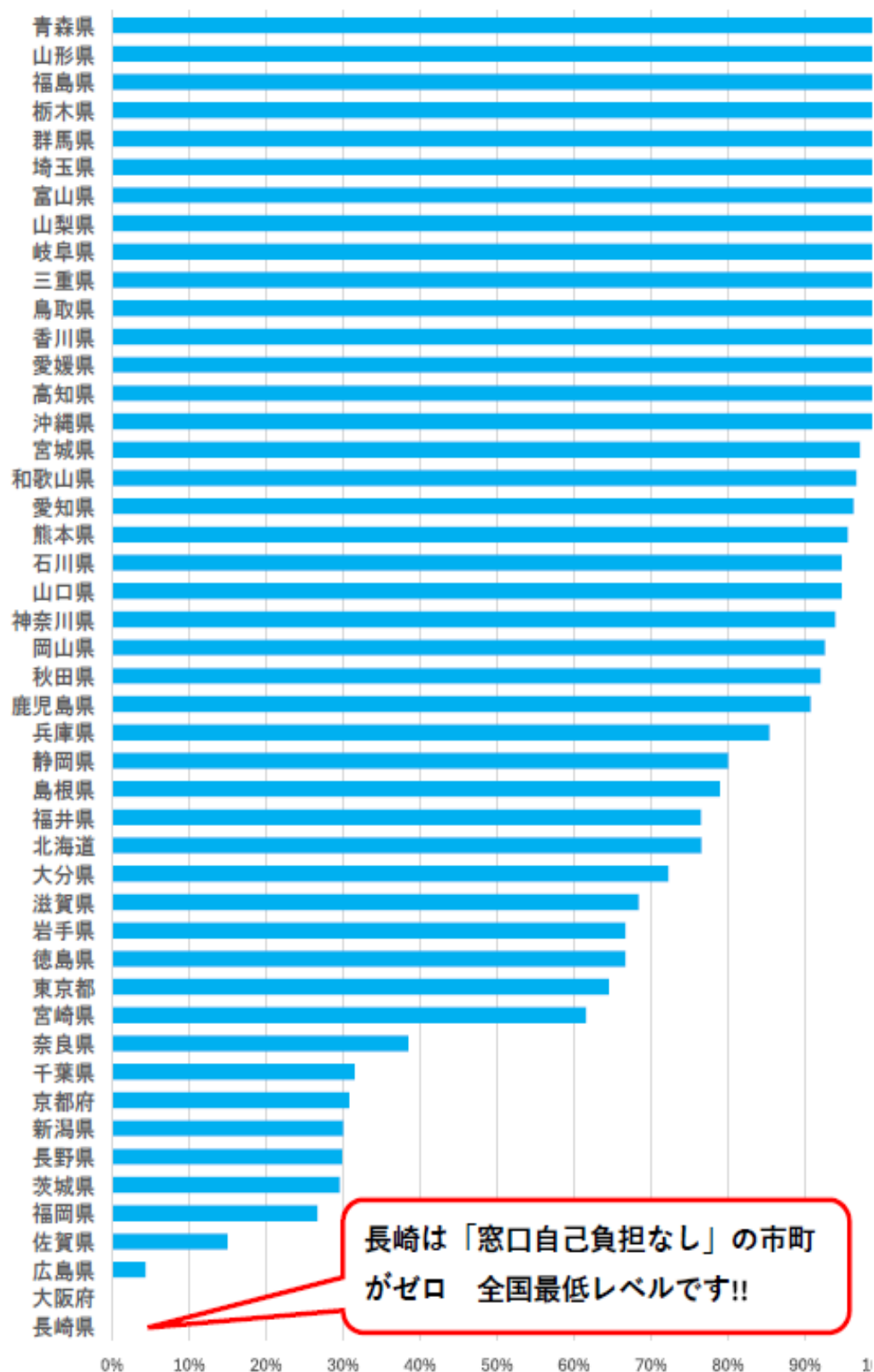
① 長崎県内のすべての市町は高校生までを助成しています。一方、「窓口自己負担なし」の市町は全国に広がっていますが、県内にはひとつもなく、県単位でみると、長崎県は全国で最下位（次頁参照）です。このことをご存じでしたか？

- 1) はい 2) いいえ 3) NA



「窓口自己負担なし」の市区町村の割合（都道府県別）

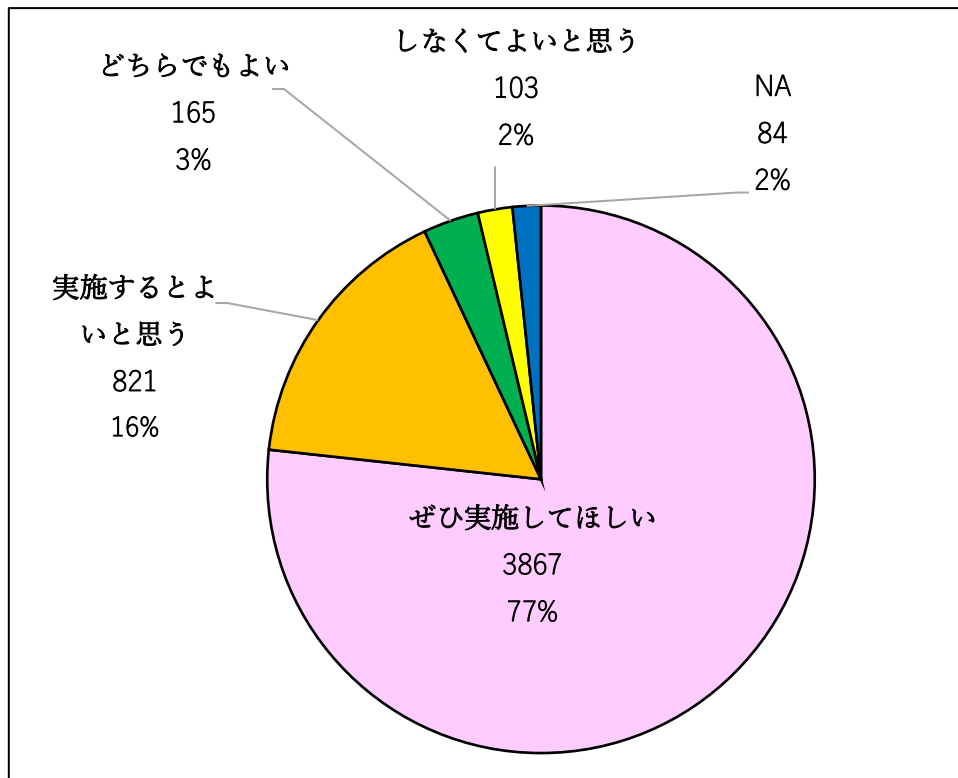
2024（令和6）年4月1日現在



長崎は「窓口自己負担なし」の市町
がゼロ 全国最低レベルです!!

② 窓口での完全無料化（自己負担なし）についてはどう思われますか？

- 1) ぜひ実施してほしい 2) 実施するとよいと思う 3) どちらでもよい
4) しなくてよいと思う 5) NA



5. 自由意見（抜粋）

【医療費 関連】

- ・ 妊婦健診ではほぼ毎回自己負担が数千円にもなる。この負担から受診控えが出てもおかしくない。少子化対策というなら「産む」「育てる」に関する金銭的負担を極力減らしてほしい。また、切迫早産で入院(1 か月半)したが、入院費用が 30 万円を超え、支払いに困った。産まれてからもお金がかかるのに…。母子の命を守る医療費については助成してほしい。離島だが、産科が少なく、緊急時には本土にへり搬送される。地元の島原市は産婦人科が 1 か所になってしまい、今後の妊娠出産への不安、その他婦人科疾患の治療(自分も子どもも)への不安が叫ばれている。安心して子どもを産み育てられるよう、医療機関を設置してほしい。(30 歳代 女性)
- ・ 妊娠中の産婦人科受診の際、補助券を使って全く支払いがない日もあれば、～5000 円位(エコー代、採血代、子宮頸がんや妊娠糖尿病などの検査代)かかる時が不定期にあり、ただでさえ自分の体調の変化や上の子の病院受診などで欠勤することがあって給料が減るのに、妊娠したことによってさらにお金がかかってしまうと子供を増やしたくても経済的に無理がある。今後子供を産んでいく若者のためにも、子供が産まれてからの補助金などの制度+妊娠中の制度も是非増やしてほしい。(20 歳代 女性)
- ・ 妊婦健診費用について、エコー代が 3,000 円必ずかかり、切迫早産等になると、月に 2 回受診する必要がある、毎月 6,000 円かかるのは大変だった。エコー代も含めて助成してほしい。また出産費用 50 万円が出て結局手出しが 7 万円など必要なため、もう少し金額を上げて欲しい。(20 歳代 女性)
- ・ 妊娠中のトラブルに関連して入退院を繰り返した時に入院費や医療費がとても高かった。(妊娠中のトラブル悪阻や切迫流産で入退院、絶対安静期間が長かったため、良性発作性頭位めまい症発症、入院。また、子供からマイコプラズマ、ノロウイルスを移され入院) また、妊娠糖尿病になると検診や

自己血糖測定の商品、検査で医療費が高くなることがあります。そして、妊娠中は免疫が低くなり、子供から風邪や病気をもらう事が多々あり、内科受診や入院などともない医療費が大変高くなりました。産後も熱が出たり、肌トラブルなどあり病院の受診もありました。この様に妊娠中、産後と出産に関して医療費が大変高くなります。産前は傷病休暇で給付金、時短勤務での給料減や育休中は給付金での生活となるので、医療費が高くなるのに手元に来るお金は少ないです。妊娠中産後と医療費の補助あれば大変助かります。また、ママだけではなく、パパも同様に子供から病気をもらい病院受診が多くなるので育児中の家庭全体への補助も是非検討して頂きたいです！よろしくお願い致します。

(30 歳代 女性)

【妊婦健診 関連】

- ・ 妊婦健診予約をしようが待ち時間 2 時間以上検診するだけで具合が悪くなる。付き添い不可のため上の子の預け先に困った。子供連れて自分の病院にいけない。(30 歳代 女性)
- ・ 妊婦健診の負担が大きいためぜひ助成して欲しいです。(40 歳代 女性)
- ・ 妊婦健診はすべて無料にして欲しい。(30 歳代 女性)
- ・ 健診代が高くて定期検診に行かない人も結構周りにいます。だれもわざわざ手出しがあるところで出産したいと思わないです。だから他県に引っ越しするのではないのでしょうか。それが人口減少にも繋がり後に地元が長崎では無くなっていきます。妊娠中のママは有給を使って仕事を休んだり、仕事でも身体と精神との闘いです。完全手出しをして当たり前の時代だと気づいて欲しいです。(20 歳代 女性)
- ・ 妊婦健診に費用がかかることに驚きました。(他県から転入) (40 歳代 女性)

【地理 関連】

- ・ 平戸松浦地区に産婦人科がなく、通院や出産時は佐世保または伊万里に行かなければならなかったためかなり苦労した。(30 歳代 女性)
- ・ 離島の為天候の悪い日の検診や、新生児を連れて船に乗らなければ行けないのが大変だった。(40 歳代 女性)
- ・ 西海市から、産婦人科へ行く際に場所が遠い為、夜勤勤務の際に、陣痛が来てしまい、病院での出産が間に合わず、車で出産に至ってしまった。(30 歳代 男性)
- ・ 佐世保市は産婦人科が少なくなった。また自分が病院を受診するときに、子供を連れて行くことにハードルを感じる。(20 歳代 女性)
- ・ 五島市は土日見てくれるところがない。また、妊娠中ハイリスクがあり、大学病院での複数の診療科を受診する際の待ち時間が長く、とても大変だった。(特に臨月。4 時間くらいかかっていた) (40 歳代 女性)

【子ども医療費 関連】

- ・ こども達の通院が毎月多い時で 8 回あり、その度に 800 円かかるのが困ります。他県から引っ越して来たので、長崎は自己負担が多いことに驚きました。長崎でこども達を育てていく為に早く制度を作って欲しい。(40 歳代 女性)
- ・ 子供医療費助成制度はどうして長崎県にはないのかずっと疑問がありました。1 つの医療機関上限 1600 円なので、他の医療機関にかかった場合はそれ以上がかかりますし子供は小児科だけではなく耳鼻科や眼科、皮膚科など多岐にわたって通院する事も多いです。この助成制度は早急に実施して欲しいです。(30 歳代 女性)
- ・ 少子化対策としても妊婦や子どもに対する助成制度を手厚くお願いしたいです。(30 歳代 女性)

- ・ 子ども医療費の自己負担分を他の県に水準をあわせて頂きたいです。(30 歳代 女性)
- ・ 子供が 3 人います。下の子が保育園に入って最初の頃はしょっちゅう病気して病院に通っていました。1 人 1 人違う病院に行くたびに医療費払っているので、ぜひ無料化にして欲しいです。800 円でも結構負担になる事があります。(30 歳代 女性)
- ・ 県外から長崎へ転入した際、子供医療費がかかることに驚いた。転入前は財布を持たずに受診できていたので、今は忘れてしまう事がある…子供が多い場所だとよく聞かすが、お金の面では子育てしにくい所だとよく思う。転入される方が多い場所なので、他県とのギャップを感じる方が多い様に感じる。(30 歳代 女性)

【子育て支援 関連】

- ・ 産後受診したくても乳児を連れて受診するのが大変であり、一緒に同行して診療中にこどもを見てくれる家族がいなかったり、病院に行っている間預かってくれる環境がなく、結局受診を断念することがあった。一時保育を頼める施設が近くになかったり、利用方法がわかりにくかった。(30 歳代 女性)
- ・ 産休育休で手当が入るまで出費が多く助成がないため、子どもを持たない選択をする人も思う。(20 歳代 女性)
- ・ 産んでから保育料やおむつなどの出費が増え時短勤務のため給料が少ない。金銭面の補助拡充希望。(20 歳代 女性)
- ・ 授乳室が県内でもまだまだ少なかったり、家事代行やベビーシッターなどは全く充実してない、病児保育も前日予約とかだと長引く病気なら対応できますがなかなか現実的ではありません。(30 歳代 女性)

【不妊治療 関連】

- ・ 不妊治療にかかる負担も大きすぎる。2 人目が欲しいですが妊娠するまでの妊活にかかるお金、妊娠期間中から出産後までのお金の心配が大きく踏み切れない。とても悔しいです。子供 1 人でもかかるお金が大きすぎるのに 2 人目 3 人目なんて欲しくても辿り着けない。1 人目の時妊娠期間中に切迫早産になり、長期入院を経験しましたが 100 万近くの医療費がかかった。この経験から 2 人目を出産するのに金銭的不安が大きすぎる。少子化対策を真剣に考えているのであればそういった面からきちんと考えて欲しい。お金が無いと子供は産めません。働いても税金税金税金。非課税にしか給付金等もないようであれば、生活は苦しいばかりです。(30 歳代 女性)
- ・ 不妊治療の補助金(助成金)をもっと手厚くしてほしい。自己負担で治療を頑張っている人をもっと応援してほしい。(県、市ともに)(40 歳代 女性)
- ・ 不妊治療への会社などの理解がもう少しあると良いなと思う。(30 歳代 女性)

【コロナ禍 関連】

- ・ コロナ禍以降、夫が健診に付き添えず、子どもへの関心が薄くなる感じがしています。子どもの親は 2 人です。母親だけではありません。父親にも成長の過程を共有し、産後の母親や子供への愛を深めてほしいです。(30 歳代 女性)
- ・ 少しずれているかもしれませんが、妊娠中にコロナにかかった際、産婦人科に電話すると持病があったこともあり、総合病院に電話してほしいと言われ、総合病院に電話すると、産婦人科で診てもらっ

てほしいと言われ、たらい回しにされました。結局どちらに診てもらうこともできず、熱で頭痛や関節痛がひどく眠る事もできなかったので、小さい頃から通っている内科に泣きついてやっと診てもらうことができました。その事で第二子の時は違う病院にしました。もう少し寄り添ってほしかったです。(20 歳代 女性)

- ・ 医療機関にはキッズスペースの併設を義務化してほしいです。長時間の待ち時間に子どもが暴れるのが大変です。コロナ禍に妊娠出産を経験したので、妊婦健診は1人でしかいけず、他の兄弟を連れて行くことも禁止されており、兄弟を誰かに預けてからしか行けなかったのもそれが大変だった。(30 歳代 女性)
- ・ 妊娠かもとわかった時点での産婦人科の最初に受診は結構な出費でした。出産の費用援助はありましたが、産婦人科の受診は自己負担だったので、助成があったらいいなと思ってました。産後あの眠れない時期に2週間検診、1ヶ月検診と産院に行くのはかなり大変です。今は自分達の親も働いている人が多いので、産後のお母さんたちのケアは社会の援助が必須です。我が家は夫は育休ないし、コロナ過で帰省できなくてすごく不安でしたが幸い、私はクリスチャン仲間や産褥ヘルプさんの助けでなんとか乗り切れました。出産後1年は自分のメンタルだけでなく、赤ちゃんのお世話も本当に大変なので、孤立しない様にどうかもっと考えてほしいなと思います。パパの育休1年も当たり前にしてほしいです。(40 歳代 女性)
- ・ コロナ禍から子供連れで受診できないことが多く、自分の急な体調不良時は子供の預け先の手配をする気力もなく夫もあてにならず、都合がつくまで受診を見送る傾向にあり、結果悪化し長引きます。産後に産婦人科さえ「お一人で受診してください」と言われ、その後同伴オッケーになかなか戻らない環境にモヤモヤしています。個人病院が高齢化でどんどん閉鎖され、大病院は予約すれば子どもに体調を崩され予定が狂い、子育てしながら母はボロボロです。諫早にもファミリーサポートが始まり大変期待していましたが1週間前までの予約で…それなら夫の都合もつきます。産前産後は今日と明日の助けが欲しいのです。子育て支援はありがたいのですが、病院の分散や、病院近くで預かってくれる一時保育の確保など、お金をばらまきより就園前に一時的に短時間でも急にでも簡単な手続きで預かってもらえるような、辛いところへ手が届くサポートをどうかよろしくお願いします。(40 歳代 女性)

【男性の関わり】

- ・ 検診の結果を妻から聞くことも多く、それよりも、医療機関から説明してもらえるシステムがあると、仕事で行けない方にとっては有難いです。また、長崎県が窓口負担なしの自治体が全国最下位ということに驚きました。他の自治体で取り組まれているのなら、特に子どもや子育て世代に負担がかからない取組は大いに取り入れていただきたい。子育て世代に手厚い長崎県であってほしいです。(30 歳代 男性)
- ・ 若者の人口流出が激しい昨今、妊娠・出産において全国平均レベルを下回っている制度については、一部分を対象とした調査を行う前に早急に実行していただきたい。妊娠出産については金銭的な心配を無くし、望む人が子供を産める環境整備をしてもらいたい。(20 歳代 男性)
- ・ まさに今、妻が出産後の産後うつ状態なのですが、里帰り出産のためケアをこまめにする事ができず、とても困っています。(40 歳代 男性)
- ・ 3歳半健診などの健診は平日にあるので、休みを調整して行くのが大変でした。土日だとすごく助かります。また、健診も(仕方ないとは思いますが)流れ作業・事務作業的でやっつけ感が強く、相談内容を事前を書いておいてもあっさり流されたりと、これは本当に意味があるのか？と疑問に思いました。中には子どもや保護者に冷たく接する人もいて、不快な思いをしたこともあります。もう少し親身に寄り添ってもらえたらありがたいです。また、長崎市内は乳幼児の遊び場が少なく、特に雨の

日や暑い日などに、屋内で体を思いっきり動かせるような施設がありません。メリッタキッズなど有償施設の誘致でも良いので、何かしら増やしてもらえると嬉しいです。(40 歳代 男性)

【行政などへの意見】

- ・ もう 1 人欲しいと思っても、経済的負担が大きく遠のいてしまう。もっと充実させてもらえると 3 人目も考えたいと思う。(20 歳代 女性)
- ・ 長崎県は他県と比較して子育て支援が行き届いていないと感じる部分が多くあるのもっと子育てがしやすい街になってくれるといいなと思います。(20 歳代 女性)
- ・ 母子手帳をもらう時に平日休みがないので取りに行けず困る。土曜か日曜も貰えるようにして欲しい。(30 歳代 女性)
- ・ 少子化と言っている割に、妊産婦の助成やその後の子育て支援が充実してない。少子化になる理由がわかる。妊産婦もその後の子育ても 1 番大変なのはお金だからもっと助成金や医療無償化を増やして欲しい。オムツやミルク代や子供の洋服、食費、全て金額上がっているのだからその分助成金や医療制度を増やして欲しい。このままだと一生不景気で少子化は変わらないと思う。減って行く一方。(30 歳代 女性)
- ・ 窓口自己負担ゼロは、絶対にしてほしいです。なんで長崎県だけないの？は常に思っていました。あると凄く助かります。妊娠期間中は働けないし収入ない方も居るかと思います。体調も急に悪くなった病院に行く機会が増えるので絶対に取り入れて欲しいです。(30 歳代 女性)

まとめ

今回のアンケートは、妊娠中や産後の医療費にかかる負担を軽減し、安心して妊娠・出産・子育てできる環境をつくるための取り組みに活かすことを目的に実施しました。

2021 年にも同じ趣旨で調査を行っており、今回は妊娠・出産を女性まかせにしないほしい、との願いから、男性にも妊婦健診の付き添いや出産の立会い、育児休暇の取得状況などの設問を追加しました。加えて、子ども医療費助成制度に関し、長崎県は「窓口自己負担なし」の市町が県内にはひとつもなく、全国ワースト 1 位である現状をお知らせし、県民の意識・要望を把握する設問を盛り込みました。

＜回答者＞

女性が 4,499 人（89%）、男性は 358 人（7%）でした。女性の 9 割以上が妊娠・出産した経験がありました。年代別にみると、30 歳代が半数を占め（54%）、40 歳代（24%）、20 歳代（13%）と続きました。

＜女性の方へのおたずね＞

- ・妊娠中に、産婦人科以外で受診した診療科は、前回調査同様「歯科」が最多でした。
- ・産後、妊娠出産を原因とする精神的な不安定さを感じた人は 4 割程度で、そのうち受診したのは 7 %程度と 1 割にも満たないことも前回調査と同じ傾向で、育児による多忙さや受診への心理的・物理的なハードル、周囲の理解や支援の不足など、さまざまな要因が挙げられました。前回の調査結果以降、状況は依然として改善されておらず、支援体制の強化が求められます。
- ・産後歯科健診に対するニーズは非常に高い（86.5%）一方で、子連れでの受診の困難さや制度内容の限定性・周知不足が、実際の利用を妨げる要因になっていることが明らかとなりました。

＜男性の方へのおたずね＞

- ・パートナーの妊娠・出産・育児に対する男性の関与や意識、制度利用の実態が見えてきました。
- ・妊婦健診の付き添いでは 69%が「付き添う予定（付き添ったことがある）」と回答し、付き添う頻度は、35%の人が「ほぼ毎回」と答えました。
- ・出産への立ち会いについては、予定や経験が「ある」人は 66%で、コロナ禍で立ち会いたくても立ち会えなかった時期を経て、立ち会い出産が増加傾向であることがうかがえ、男性の育児参加意欲は決して低くないことがわかりました。

・育児休暇・育児休業の取得に関しては、厚労省の調査結果（2023 年度取得率 30.1%）とほぼ同率の 31%で、上昇傾向ではありますが、課題が多く残されていることも明らかになりました。その理由としては、「職場が育休制度に対応していない」「人手不足」「制度はあるが取りにくい雰囲気」「自営業で困難」など、制度の未整備や職場の理解不足、業務上の制約が挙げられており、個人の意欲だけでは乗り越えられない構造的な課題が存在することが分かります。また、「申請のやり方がわからなかった」との声もあり、制度の周知不足や情報提供の不十分さも浮き彫りとなりました。

・「産後うつ」については 97%の男性が「知っている」または「言葉を知っている程度」と回答しており、一定の認知が進んでいるといえます。今後は、こうした認知を具体的な行動やサポートにつなげていくための啓発活動や情報提供が求められます。

以上のことから、男性の育児参加意欲や家庭内での役割意識は高まりつつある一方で、制度や職場環境、情報提供などの支援体制が追いついていない現状があります。今後は、男性が育児に参画しやすい環境整備や、制度の柔軟な運用、地域・職場レベルでの支援の充実が重要です。男女ともに安心して妊娠・出産・育児期を過ごせる社会の実現に向けた取り組みが求められます。

<すべての方へのおたずね>



妊産婦医療費助成制度

・妊娠期間・産後を通して医療費や健診代にかかる自己負担については、「非常に高い」22.4%、「高い」49.8%と回答しており、収入が少ない若年層への経済的負担が妊娠・出産に伴う大きな不安要素となっていることがわかります。

・そのような中で、妊産婦医療費助成制度の認知度については、前回調査の 13%から 42%へと大幅に向上しており、2023 年 4 月に県内で初めて制度を導入した南島原市の影響や、妊産婦支援の必要性が高まったことなどが背景として考えられます。

・制度の創設を求める声は 95%にのぼり、前回調査と変わらず県民のニーズは非常に高く、早い時期の制度創設が求められます。

子ども医療費助成制度

・子ども医療費助成制度に関し、「窓口自己負担なし」の市町が県内にはひとつもなく、県単位でみると、長崎県は全国ワースト 1 位ということを知らなかった人が 8 割に及び、驚きの声がよせられました。

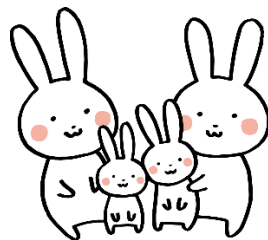
・同時に医療機関窓口で自己負担のない完全無料化を望む声は、「ぜひ実施してほしい」「実施するとよいと思う」あわせて 9 割を超えました。多くの保護者の声に応え、県や市での無料化が急務といえます。

<自由意見>

自由意見欄への記載は数多く、県民の多くが妊娠・出産・産後の医療にかかる費用に対し、経済的な不安や制度の不十分さを強く感じていることが明らかとなりました。特に「健診や出産時にかかる自己負担が大きい」「県外と比べて助成が少ない」といった声が多く、現行制度に対する不満や地域間格差への不公平感が根強く存在することが浮き彫りとなりました。同時に、「県外受診時に補助が効かず困った」「産後ケアが利用しづらい」といった具体的な体験に基づく声も多く寄せられ、制度の隙間や運用上の課題も顕在化しました。また、「子連れでの受診が難しい」との妊産婦の実生活に根差した支援ニーズや産婦人科や小児科など医療機関の減少が進む中で苦勞する声も数多く見受けられました。

これらの声は、現行制度の見直しにとどまらず、実際の妊婦や家族の視点に立った柔軟かつ実効性のある制度設計が必要であることを示唆しています。

今後、他県の先進的な取り組みを参考にしつつ、妊産婦が安心して医療を受けられる環境整備と支援の拡充が求められています。本アンケートを通じて寄せられた一つ一つの声が、今後の制度検討や改善の一助となることを願っています。



妊産婦医療費助成制度実施自治体一覧（2025年6月現在：未定稿） （特定疾患での入院のみを対象とする妊娠中毒症医療費助成制度等を除く）						
入院・外来を問わず妊産婦の医療費窓口負担の助成を行っている「妊産婦医療費助成制度」実施状況を、各自治体のホームページ等を元にまとめた。 なお、1997年3月まで国制度として実施していた入院のみを対象とする「妊娠中毒症等療養援護」に準ずる制度（妊娠中毒症、糖尿病、貧血、産科出血、心疾患に罹患している低所得世帯に属する妊産婦の入院を対象とするもので「妊娠高血圧症候群療養援護費」等とも称される）や、妊娠・出産祝い金、妊婦健診への助成は、下記から除いている。						
都道府県	実施主体	対象	自己負担金	所得制限	給付方法	入院食事
北海道	せたな町	母子健康手帳公布月の初日から出産月の翌月末	医療費の1割 月額上限(通院9,000円、入院28,800円)	なし	償還払い	×
青森県	国保(全県)	国民健康保険加入者で、妊娠届出受理日から出産の翌月末まで「妊産婦10割給付証明書」を提示することにより、外来医療費(入院は対象外)	なし	なし	現物給付	×
岩手県	全県	妊娠5ヶ月目の月の初日から出産月の翌月末	月額上限(通院1,500円、入院5,000円)※監護者又は本人市町村民税非課税の場合は自己負担無し	「監護者又は本人の所得。児童扶養手当準用(国基準に80万円上乘せ)」以下	現物給付	×
		岩手県は市町村と共同で「妊産婦医療助成事業」を実施。 次に掲げる市町村は、県制度に上乘せ給付を行っている。(大船渡市、北上市、久慈市、二戸市、滝沢市、岩手町、西和賀町、金ヶ崎町、住田町、大槌町、山田町、普代村は県基準通り)※滝沢市は2024年11月診療分から所得制限を緩和				
	自治体名	所得制限(県制度への上乗せ)		自己負担(県制度への上乗せ)		
				外来	入院	食事
		盛岡市		非課税者 負担なし 課税者 750円	非課税者 負担なし 課税者 2,500円	×
		宮古市、陸前高田市、洋野町		— 負担なし	— 負担なし	×
		花巻市、遠野市		所得制限なし 非課税者 負担なし 課税者 750円(レセ)	非課税者 負担なし 課税者 2,500円(レセ)	×
		一関市、釜石市、奥州市、葛巻町、平泉町、田野畑村、軽米町、野田村、九戸村		所得制限なし 負担なし	— 負担なし	×
		八幡平市、雫石町、紫波町、岩泉町、一戸町		所得制限なし —	—	×
		矢巾町		所得制限なし 750円(レセ)	2,500円(レセ)	×
宮城県						
秋田県	にかほ市	母子手帳交付日から出産の翌月末	なし(助成上限入院外3万円、多胎妊娠および入院は5万円)	なし	償還払い	×
	小坂町	母子手帳交付の翌月1日から出産の翌月末	なし(助成上限5万円)	なし	償還払い	×
山形県						
福島県	白河市	4ヶ月目の初日から出産月の翌月末まで	なし	なし	償還払い	○
	喜多方市	国保加入者で妊娠5ヶ月目の月の初日から出産月の末日まで	なし	なし	現物給付	×
	二本松市	国保加入者で妊娠4ヶ月目の月の初日から出産月の末日まで	なし	なし	現物給付	×
	田村市	妊娠4ヶ月目の月の初日から出産月の末日まで	なし	なし	国保現物 社保償還	×
	南会津町	母子健康手帳交付月の初日から、出産月の翌月末	なし	なし	現物給付	○
	北塩原村	妊娠届出受理月の初日から、出産付きの翌月末まで(2024年4月～)	なし	なし	償還払い	○
	西会津町	国保加入者で妊娠5ヶ月目の月の初日から出産月の末日まで	なし	なし	現物給付	低所得○
	磐梯町	国保加入者で妊娠5ヶ月目の月の初日から出産月の末日まで	なし	なし	現物給付	×
	会津坂下町	国保加入者で妊娠4ヶ月目の月の初日から出産月の末日まで	なし	なし	現物給付	×
	湯川村	妊娠5ヶ月目の月の初日から出産月の末日まで	なし	なし	現物給付	国保○
	柳津町	国保加入者で妊娠16週となる日が属する月から出産月の末日まで(令和6年度)	なし	なし	現物給付	×
	三島町	国保加入者で妊娠4ヶ月目の月の初日から出産月の末日まで	なし	なし	なし	×
	金山町	国保加入者で妊娠4ヶ月目の月の初日から出産月の末日まで	なし	なし	現物給付	×
	昭和村	国保加入者で妊娠4ヶ月目の月の初日から出産月の末日まで	なし	なし	現物給付	×
	西郷村	妊娠5ヶ月目の翌月の初日から出産月の末日まで	なし	なし	現物給付	×

市町村数

1

40

33

2

21

都道府県	実施主体	対象	自己負担金	所得制限	給付方法	入院食事
福島県 (続き)	棚倉町	妊娠4ヶ月目の初日から出産月の 末日まで(2023年4月～)	なし	なし	下記参照	○
		・社保、国保の方が県内で受診の場合と社保の入院時食事の標準負担額＝現物給付 ・国保組合の方及び県外で受診の場合と国保の入院時食事の標準負担額＝償還払い				
	塙町	妊娠5ヶ月目の翌月の初日から出 産月の末日まで	なし	なし	国保現物 社保償還	○
	鮫川村	妊娠5ヶ月目の翌月の初日から出 産月の末日まで	なし	なし	現物給付	×
	石川町	4ヶ月目の初日から出産月の翌月 末まで	なし	なし	償還払い	×
	小野町	妊娠4ヶ月目の初日から出産月の 翌月末日まで	なし	なし	償還払い	×
	富岡町	国保加入者で妊娠16週となる日が 属する月から出産月の末日まで	なし	なし	現物給付	×
茨城県	全県	母子健康手帳交付月の初日から、 出産月の翌月末日	通院1日600円、月2回まで 入院1日300円、月3,000円まで	630万円未満(扶養1 人+38万円)及び扶 養義務者所得1,000万 円未満	現物給付	×
	茨城県は市町村と共同で「妊産婦医療福祉費支給制度」を実施。 原則として産科・婦人科を対象とするが、「妊娠継続または安全な出産のために治療が必要となる疾病または負傷に限る」もので産婦人科医から紹介状を 交付された場合は、助成対象となる。なお、産婦人科医から紹介状が交付されれば医科・歯科を問わず助成対象となる。 なお、制度を受けるためには所得制限(630万円を基礎として、扶養親族1人につき38万円を加算した額)がある。 また、通院1日600円・月2回まで、入院1日300円、月3,000円までの負担がある。 県内で制度を利用する場合は、現物給付となるが、県外の医療機関を受診した場合や、市町村による上乗せ給付分については償還払いとなる。 次に掲げる市町村は、県制度に上乗せ給付を行っている。(水戸市、龍ヶ崎市、常総市、取手市、つくば市、鹿嶋市、行方市、鉾田市、小美玉市、茨城 町、城里町は上乗せ給付を行っていない)					
	自治体名		所得制限。対象診療科 (県制度への上乗せ)	自己負担(県制度への上乗せ)		
				外来	入院	食事
	日立市、土浦市、常陸太田市、守谷市、筑西市、 稲敷市、桜川市、神栖市、つくばみらい市、大子 町		対象診療科拡大、所得制限撤廃	—	—	
	古河市、高萩市、北茨城市、坂東市、大洗町、阿 見町、堺町		対象診療科を拡大	—	—	
	石岡市、牛久市、潮来市、那珂市、美浦村、五霞 町、八千代町		所得制限を撤廃	—	—	
	結城市、笠間市、常陸大宮市		所得制限を撤廃	負担なし	負担なし	
	下妻市		—	負担なし	負担なし	
	ひたちなか市		対象診療科を拡大	負担なし	負担なし	
	かすみがうら市		対象診療科を拡大	負担なし		
	東海村		対象診療科拡大、所得制限撤廃	負担なし	負担なし	負担なし
	河内町、利根町		対象診療科拡大、所得制限撤廃	負担なし		
都道府県	実施主体	対象	自己負担金	所得制限	給付方法	入院食事
栃木県	全県	母子健康手帳交付月の初日から、 出産月の翌月末	月額上限(通院500円、入院500 円)	なし	償還払い	×
	野木町、足 利市、栃木 市、小山市、 那須塩原 市、芳賀町、 佐野市、鹿 沼市、日光 市、真岡市、 那須烏山 市、下野市、 茂木町、市 貝町、壬生	母子健康手帳交付月の初日から、 出産月の翌月末	なし	なし	償還払い	×
	宇都宮市	母子健康手帳交付月の初日から、 出産月の翌々月末	なし	なし	償還払い	×
	上三川町	母子健康手帳交付月の初日から、 出産月の翌月末	なし	なし	償還払い	令和6年3月までの 分は助成あり
	那珂川町	母子健康手帳交付月の初日から、 出産月の翌月末	なし	なし	県内医療機関:現物給付 県外医療機関:償還払い	×
	群馬県					
埼玉県	美里町	母子健康手帳交付日から、出産月 の翌月末	なし	なし	償還払い	×
千葉県						
東京都						
神奈川県						
山梨県						
新潟県 (全市町 村で実 施:県補 助無)	新潟市	申請日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円、訪問看護1日250 円	なし 2023年4月～	現物給付	×
	長岡市	母子健康手帳公布日の翌月から出 産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円、訪問看護1日250 円	なし 2023年10月～	現物給付	低所得者○
	三条市	申請日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円	なし	現物給付	×
	柏崎市	母子健康手帳公布日から出産月の 翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円、訪問看護1日250 円	なし	現物給付	低所得者○

44

25

1

30

都道府県	実施主体	対象	自己負担金	所得制限	給付方法	入院食事
新潟県 (続き) (全市町村で実施: 県補助無)	新発田市	申請日の翌月初日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円	なし 2023年4月～	現物給付 2023年4月～	×
	小千谷市	母子健康手帳公布日から出産月の翌月末	なし	なし	現物給付 2023年10月～	低所得者○
	加茂市	妊娠証明を受けた日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円	なし	現物給付	低所得者○
	十日町市	母子健康手帳公布日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回 入院なし、訪問看護1日250円	なし	償還払い	低所得者○
	見附市	母子健康手帳公布日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円 訪問看護1日250円	なし	償還払い	×
	村上市	妊娠の届出の翌日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円、訪問看護1日250円	なし	現物給付	低所得者○
	燕市	申請日から出産月の翌月末	なし	なし	現物給付	低所得者○
	糸魚川市	母子健康手帳公布日から出産月の翌々月末	なし 2023年10月～	なし	現物給付 2023年10月～	×
	妙高市	登録申請日から出産月の翌月末	なし	なし	現物給付	低所得者○
	五泉市	申請日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円	なし	現物給付	×
	上越市	申請日の翌月初日から出産月の翌月末	なし	なし	現物給付	低所得者○
	阿賀野市	申請日の翌月初日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円、訪問看護1日250円	なし	現物給付	×
	佐渡市	申請日の翌月から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円、訪問看護1日250円	なし	償還払い	×
	魚沼市	登録申請日から出産月の翌月末	なし	なし	現物給付	国保低所得<減額>
	南魚沼市	申請日から出産月の翌月末	なし	なし	現物給付(入院は償還)	低所得者○
	胎内市	妊娠届出をした日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 薬局 無料 入院1日1200円、訪問看護1日250円	なし	現物給付	低所得者○
	聖籠町	申請日の翌月初日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円、訪問看護1日250円	なし	現物給付	低所得者(半額)
	弥彦村	認定日の翌日から出産月の3ヵ月後末日	なし	なし	現物給付	低所得者○
	田上町	申請日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円	なし	償還払い	×
	阿賀町	申請日の翌月初日から出産月の翌月末	なし	なし	償還払い	×
	出雲崎町	母子健康手帳公布日の翌月から出産月の翌々月末	なし	なし	償還払い	低所得者○
	湯沢町	妊娠証明を受けた翌日から出産月の翌月末	通院1日530円(回数上限なし) 入院1日1200円	なし	償還払い	低所得者○
	津南町	母子健康手帳公布日の翌日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回 入院1日1200円	なし	償還払い	×
	刈羽村	申請日の翌月から出産月の翌月末	支払総額から下記を引いた一部負担金の2分の1を助成 通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円	なし	償還払い	低所得者(半額)
	関川村	母子健康手帳公布日から出産月の翌月末	通院1日530円、月4回まで 入院1日1200円、訪問看護1日250円	なし	現物給付	×
	粟島浦村	母子健康手帳公布月の初日から出産月の翌月末	なし	なし	償還払い	×
富山県	全県	※妊娠高血圧症候群、糖尿病、貧血、産科出血、心疾患、切迫早産に対する医療費に限る(入院・外来、診療科を問わない) 妊産婦医療費受給資格登録申請書受理月の初日から出産月の翌月末	なし	なし	現物給付	×
石川県	能美市	※妊娠に伴い生じた疾病によるものと証明された分(入院・外来、診療科を問わない)及び出産育児一時金を超える保険診療の窓口負担分 母子健康手帳交付日から出産の翌月末	入院:なし 入院以外:※助成(一部負担金の総額が1万円以上の場合に定額1万円を助成)	なし	償還払い	×

15

2

都道府県	実施主体	対象	自己負担金	所得制限	給付方法	入院食事	
石川県 (続き)	志賀町	※妊娠に伴い生じた疾病によるものと証明された分(入院・外来、診療科を問わない)及び異常分娩 母子健康手帳交付日から出産の翌月末	なし	なし	償還払い	×	
福井県	勝山市	母子健康手帳交付日から、出産月の翌月末	なし	なし	償還払い	×	3
	池田町	母子健康手帳交付日から、出産後1年に達する月の末日まで	なし	なし	償還払い	○	
	おおい町	母子健康手帳公布日から出産月の翌々月末	なし	なし	償還払い	○	
長野県	飯山市	母子手帳の交付月の初日から出産した月の翌月の末日まで	月額上限500円(レセプト単位)	なし	償還払い	×	11
	佐久市	母子手帳交付日の月の初日から出産した月の翌月末まで	月額上限500円(レセプト単位)	なし	償還払い	×	
	川上村	母子手帳交付月の初日から出産した月の翌月末まで	月額上限500円(レセプト単位)	なし	償還払い	×	
	南牧村	母子健康手帳の交付月の初日から出産した月の翌月末日まで	月額上限300円(レセプト単位)	なし	償還払い	×	
	南相木村	母子手帳交付月の初日から出産した月の翌月末まで	月額上限300円(レセプト単位)	なし	償還払い	×	
	軽井沢町	母子手帳交付日から産後60日まで	月額上限500円(レセプト単位)	なし	償還払い	×	
	立科町	母子健康手帳の交付月の初日から出産した月の翌月末日まで	月額上限500円(レセプト単位)	なし	償還払い	×	
	箕輪町	母子手帳交付月の初日から出産した月の翌月末日まで(2023年8月より)	月額上限500円(レセプト単位)	なし	償還払い	×	
	大桑村	母子健康手帳の交付月の初日から出産後一年に達する月の末日まで	月額上限500円(レセプト単位)	なし	償還払い	×	
	朝日村	母子手帳交付月の初日から出産した月の翌月末まで	月額上限500円(レセプト単位)	なし	償還払い	×	
	木島平村	母子手帳交付月の初日から出産した月の翌月末まで	月額上限500円(レセプト単位)	なし	償還払い	×	
岐阜県	飛騨市	母子手帳交付月の初日から出産した月の翌月末まで	なし	なし	償還払い	×	1
静岡県	焼津市	※妊娠高血圧症候群、妊娠に起因する糖尿病、妊娠に起因する貧血、切迫流産、切迫早産に対する医療費(分娩に係る保険診療分を除く。入院・外来を問わない) 妊娠届出月の初日から出産した月の翌月末まで	なし	なし	償還払い	×	2
	牧之原市	※妊娠高血圧症候群、妊娠に起因する糖尿病、妊娠に起因する貧血、切迫流産(流産に係る手術費用を除く)、切迫早産に対する医療費(入院・外来を問わない) 妊娠届出月の初日から出産した月の翌月末まで	なし	なし	償還払い	×	
愛知県	東海市	※産婦人科における入院・入院外母子健康手帳交付日から出産前日	なし	なし	市内:現物 市外:償還	×	6
	東浦町	母子健康手帳の交付を受けた月の初日から5か月間(2021年1月～)	なし	なし	償還払い	×	
	南知多町	母子健康手帳の交付を受けた月の初日から出産した月の末日(2024年4月～)	なし	なし	償還払い	×	
	美浜町	妊娠届出月の初日から出産月の末日まで(2023年7月～制度創設)	なし	なし	償還払い	×	
	武豊町	母子健康手帳公布日から出産月の末日まで(2021年4月～)	なし	なし	償還払い	×	
	設楽町	妊娠届出月の初日から出産月の翌月末日まで(2021年4月～)	なし	なし	償還払い	×	
三重県	津市	妊娠5か月以上の妊産婦で、出産した月の翌月末	なし	なし	償還払い	×	1
滋賀県	東近江市	母子健康手帳の交付月の初日から、出産した月の翌月の末日まで(2024年4月～)	通院1月500円 入院1日1,000円(月14,000円上限)	なし	償還払い	×	1
京都府							
大阪府							
兵庫県							
奈良県							

都道府県	実施主体	対象	自己負担金	所得制限	給付方法	入院食事	
和歌山県	日高町	妊娠届受理日から出産完了日	なし	なし	償還払い	×	2
	印南町	妊娠届受理日から出産完了日	なし	なし	償還払い	×	
鳥取県							
島根県							
岡山県	矢掛町	母子健康手帳の交付月の初日から 出産月の翌月の末	※助成(1人につき、3万5千円ま で)	なし	償還払い 3万5千円限度	×	1
広島県							
山口県							
徳島県							
香川県							
愛媛県	伊方町	妊娠届を提出した日の月初から出 産した日の翌々月末まで	なし	なし	償還払い	×	1
高知県							
福岡県							
佐賀県							
長崎県	南島原市	妊娠の届出を行った月の初日から 出産の翌月末(2023年4月～制度 創設)	※助成(助成対象期間の窓口負担 合計額から5万円を差し引いた額 の2/3を助成)	なし	償還払い	×	1
熊本県							
大分県	臼杵市	母子健康手帳の交付月の初日から 出産月の翌月末	なし	なし	償還払い	×	4
	竹田市	母子健康手帳の交付月の初日から 出産月の翌月末	※助成(1人につき、3万円まで助 成)	なし	償還払い	×	
	豊後高田市	母子健康手帳の交付月の翌月初 日から出産月の翌月末	なし	なし	償還払い	×	
	宇佐市	母子健康手帳の交付月から出産月 の翌月末(2024年4月～)	通院1回500円(月4回まで) 入院1日500円(月7,000円まで)	なし	償還払い	×	
宮崎県							
鹿児島県							
沖縄県							

23道県 248

【網掛けは2025年1月以降開始】

全国保険医団体連合会・地域医療対策部会 2025年6月作成



妊産婦さんの医療費助成に関するアンケート

長崎県保険医協会／こども医療長崎ネット（TEL: 095-825-3829）

妊娠中、産後の医療費にかかる負担を軽減し、安心して妊娠・出産
子育てできる環境をつくっていくための今後の取り組みに活かすため、
アンケートを実施することになりました。ご協力をお願いします。

ウェブ回答はこちらから

男性のご意見もぜひお聞かせください!!



回答はおひとりずつお願いします

1

あなたご自身についておたずねします

住居： 長崎県（ ）市・町

長崎県外

年齢： 10 歳代 ・ 20 歳代 ・ 30 歳代 ・ 40 歳代 ・ 50 歳代以上

性別： 男性 ・ 女性 ・ 回答しない

2

女性の方におたずねします

①妊娠（流産・中絶を含む）・出産した経験はありますか（現在妊娠中も含む）？

ある ・ ない

②妊娠中に産婦人科以外で受診した診療科は？（複数回答可）

内科 ・ 外科 ・ 整形外科 ・ 脳神経外科 ・ 眼科 ・ 耳鼻咽喉科 ・ 皮膚科

歯科 ・ 産婦人科以外を受診していない ・ その他（ ）

③出産後1年以内に、妊娠・出産を原因とする精神的な不安定さを感じたことがありますか？

ある ・ ない ・ その他（ ）

「ある」とご回答の方 そのときに心療内科・精神科を受診しましたか？

受診した

受診していない（理由： ）

その他（ ）

④長崎県内の全市町は産後健診を実施していますが、産後歯科健診は実施にばらつきがあり、
実施しているのは、5市町（長崎市・佐世保市・島原市・五島市・波佐見町）しかありません。
産後歯科健診についてどう思われますか？

ぜひ実施してほしい ・ あるとよいと思う ・ どちらでもよい ・ いらないと思う

その他（ ）

3

①妊婦健診の付き添いについて

付き添う予定（付き添ったことがある） → **頻度は？** ほぼ毎回 ・ 2 回に 1 回程度 ・ たまに

付き添う予定はない（付き添ったことはない）

②出産に立ち会う予定（立ち会った経験）がありますか？

ある ・ ない ・ 未定 ・ その他 ()

③育児休暇または育児休業をとる予定（とった経験）がありますか？

ある ・ ない ・ 未定 ・ その他 ()

④「産後うつ」を知っていますか？

知っている ・ 言葉を知っている程度 ・ 知らない

4

①妊娠期間・産後を通して医療費や健診代にかかる自己負担は、どう感じますか？

非常に高い ・ 高い ・ まあまあ妥当 ・ 安い ・ わからない

②他県・市では、子ども医療費助成制度のように、妊産婦を対象に医療費の自己負担分を補助する「妊産婦医療費助成制度」があります（県や市町など地域によって対象や範囲、内容に違いがあります）。この制度のことをご存知でしたか？

詳細はこちら



はい ・ いいえ

③「妊産婦医療費助成制度」は長崎県内では南島原市以外で実施している市町はありません。
県や市町が制度を創設することについてはどう思われますか？（1つのみ）

ぜひつくってほしい ・ あるとよいと思う ・ どちらでもよい ・ いらないと思う

④「子ども医療費助成制度」についておたずねします

(1) 長崎県内のすべての市町は高校生までを助成しています。一方「窓口自己負担なし」の市町は全国に広がっていますが、県内にはひとつもなく、県単位でみると長崎県は全国で最下位です。
このことをご存じでしたか？

詳細はこちら



はい ・ いいえ

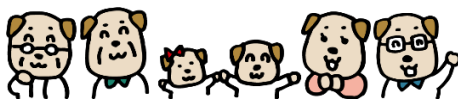
(2) 窓口での完全無料化（自己負担なし）についてはどう思われますか？

ぜひ実施してほしい ・ 実施するとよいと思う ・ どちらでもよい ・ しなくてよいと思う

5

自由意見欄

妊婦健診や産後医療機関受診の際に困ったことや苦勞されていること、行政や医療機関への要望など自由にご記入下さい



ママ＆パパ 5,000 人の声

「妊産婦さんの医療費助成に関するアンケート」結果報告

発 行 2025 年 9 月 10 日

発行人 長崎県保険医協会

長崎市恵美須町 2－3 フコク生命ビル 2F

TEL 095－825－3829

FAX 095－825－3893

<https://www.vidro.gr.jp/>